さんさんクラブ宮崎
50年のあゆみ

The 50th anniversary

結成50周年記念誌

公益財団法人　宮崎県老人クラブ連合会

さんさんクラブ宮崎

綱　　領

一　私たちは　生きがいのある幸せな人生を送るため
心と体の健康づくりに努めましょう

一　私たちは　思いやりのある高齢社会をめざして
互いに支え合い励まし合いましょう

一　私たちは　安心して快適に暮らせるまちをめざして
進んで社会奉仕活動に参加しましょう

一　私たちは　豊かな地域社会づくりを進めるため
若い世代と手を携え
交流や学習活動に参加しましょう

一　私たちは　高齢者の活力を結集するため
誰もが喜んで参加できる
クラブづくりに努めましょう

（平成15年6月3日　制定）

CONTENTS

目　次

さんさんクラブ宮崎　綱領 …… 01

「さんさんクラブ宮崎 50年のあゆみ」発刊にあたって
公益財団法人宮崎県老人クラブ連合会　会長　小倉　豊 …… 03

祝　辞
宮崎県知事　河野　俊嗣 …… 04

結成50周年記念誌の発刊を祝して
全国老人クラブ連合会　会長　斎藤　十朗 …… 05

結成50周年記念行事 …… 06

さんさんクラブ宮崎　50年を振り返る

旧綱領 …… 10
会報「宮崎県百連会報」創刊号 …… 11
宮崎県老人クラブ連合会の組織の変遷 …… 12
大きなできごと …… 14

さんさんクラブ大会(老人クラブ大会) …… 20
研修会のあゆみ …… 22
会議の開催 …… 25
作品展示会 …… 26
スポーツ大会 …… 28
健康づくり事業 …… 30
老年開発講師団派遣事業　など …… 32
広報活動 …… 34

結成50周年記念座談会　県老連の歴史を振り返って …… 36

50周年を迎えた市町村老連
都城市高齢者クラブ連合会 …… 42
諸塚村寿会連合会 …… 43
川南町長寿会連合会 …… 44

市町村老人クラブ連合会一覧 …… 45

歴代会長 …… 46
歴代役員一覧 …… 48
年表 …… 58

あとがき …… 64

「さんさんクラブ宮崎 50年のあゆみ」発刊にあたって

公益財団法人宮崎県老人クラブ連合会
会長　小倉　豊

宮崎県老人クラブ連合会は、前身の「宮崎県百歳会連合会」が昭和36年12月1日に結成されてから50年を迎えました。

県下の老人クラブは、戦後、自主的に老人福祉の増進を図るために市町村、地域において誕生し、昭和33年に宮崎市ほか数カ市町村による宮崎県百歳会が発足、昭和36年に百歳会連合会として組織化され、昭和38年の老人福祉法の施行によって宮崎県老人クラブ連合会として改称されて今日の連合会組織へと変遷してきました。

これまでの県老連の50年の歴史を築いてこられた先輩会員や多くの関係者の方々に心から感謝申し上げます。

私達県老連(さんさんクラブ宮崎)は、「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動を柱に、自らの生きがいを高め、健康づくりに努めるとともに、環境美化活動や一人暮らし高齢者に対する友愛訪問、文化伝承活動、あるいは子どもの見守り活動など、地域において様々な活動に取り組んできました。住民同士が支え合う連帯感が希薄になってきているといわれる今日の地域社会において、さらに高齢化が進展していく中で、より活力ある長寿社会を築くためには、さんさんクラブの活動は一層重要なものになってくると確信をいたします。

このたび50周年を記念して「さんさんクラブ宮崎の50年」を発刊いたしました。県老連は、本年4月1日から新たに公益財団法人としてスタートいたしましたが、これまでの50年の活動を振り返り、会員全体でこの歴史を引き継ぎ、さらに発展させていかなければならないと思っています。この記念誌がその一助になれば幸いです。最後に、本誌の発刊にご協力いただきました関係各位に心からお礼申し上げ、今後一層のご指導、ご協力をお願いして発刊のことばといたします。

祝　辞

宮崎県知事
河野　俊嗣

このたび、宮崎県老人クラブ連合会が結成50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴連合会は、戦前、戦後の厳しい時代を懸命に生きてこられた先達の御努力により昭和36年に宮崎県百歳会連合会として結成されました。

以来、半世紀にわたり、生きがいづくりや健康づくりなど高齢者自身の生活を豊かにする活動や奉仕活動、友愛活動、環境美化、文化伝承、世代間交流などの地域を豊かにする社会活動に積極的に取り組まれ、現在では、1,281クラブ、5万8千人の会員を擁するまでに発展してこられました。

これもひとえに、これまでの役員及び会員の皆様方の熱意と努力の賜であり、心から感謝と敬意を表する次第であります。

さて、県民の4人に1人が65歳以上という本格的な高齢社会を迎えた本県におきましては、高齢者の皆様方が長年培ってこられた豊かな知識や経験、技能などを様々な活動を通して発揮されることが、明るい長寿社会づくりや地域の活性化にとって不可欠であります。

また、先の東日本大震災の経験を通じて、今、改めて人や地域を結ぶ「絆」の大切さが認識されています。

このような中、県では、県民の皆様が住み慣れたふるさとで、恵まれた自然とふれあい、健康で、心豊かなくらしが送れるよう地域の「絆」を大切にした、宮崎らしい「豊かさを実感できるくらし」の実現を目指しているところでありますが、老人クラブの皆様が、それぞれの地域において互いに支え合いながら、楽しい、そして社会貢献するクラブづくりに日々励んでおられますことは、その実現に向けて誠に心強い限りであります。

今後とも、皆様方の長年にわたる活動の成果と変わらぬ意欲を、地域社会の活力の維持・向上のために生かしていただき、健康で生き生きと御活躍されますことを期待いたしております。

結びに、宮崎県老人クラブ連合会のますますの御発展と皆様方の御健勝、御多幸を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

「結成50周年記念誌の発刊を祝して」

全国老人クラブ連合会
会長 斎藤　十朗

宮崎県老人クラブ連合会が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申しあげます。これまで老人クラブの発展にご尽力された歴代会長、役職員をはじめ会員各位のご努力に深く敬意を表します。

宮崎県における老人クラブの歴史は、昭和36年に宮崎県百歳会連合会の結成に始まり、その後、老人福祉法の施行に伴い、昭和38年に現在の老人クラブ連合会に改称され、これまで半世紀にわたり活動の歴史を刻んでこられました。

この間、特に昭和42年に始まった作品展示会は、今日まで第46回を数える歴史ある事業として発展、継承されてきました。また、友愛活動、見守り・防犯活動などに高齢者の活力を十分に生かすため、要となるシルバーボランティアのリーダー養成をはじめ、地域の健康・生きがいづくりの取り組みにも優れた実績をあげておられます。

さらに、平成8年の第9回全国健康福祉祭みやざき大会では地域文化伝承館の開設、平成15年には第32回全国老人クラブ大会を開催するなど、日頃の老人クラブ活動の成果を存分に発揮され、参加した全国の関係者から高く評価されたところです。

さて、ご承知のとおり、わが国は少子・高齢化の進展に伴い、人口減少社会が到来するなかで、地域の人間関係が希薄化し、高齢者の孤独死や消費者被害防止など多様な地域課題を抱えています。

このようななかで、貴会が取り組む前述の活動やいま全国各地の老人クラブが取り組んでいる環境美化活動、資源ごみの回収・リサイクル活動、地域文化等の伝承活動などは、高齢者パワーによる地域再生の取り組みとして重要な活動であると考えています。

貴会が創立50周年を契機に、「仲間づくり・健康づくり・生きがいづくり」を目的とする老人クラブ創設の原点に立ち返り、「高齢者の世紀」にふさわしい魅力あるクラブづくりに向けて飛躍・発展されますようご祈念申し上げ、お祝のことばといたします。

結成50周年記念行事

第36回宮崎県さんさんクラブ大会（結成50周年記念大会）

平成23年8月18日、結成50周年記念第36回宮崎県さんさんクラブ大会を宮崎市民文化ホールで開催しました。

あいさつ　小倉豊 県老連会長

あいさつ　河野俊嗣 宮崎県知事

祝辞　宮崎県議会議長
（代理　黒木正一 厚生常任委員長）

祝辞　黒木健二 宮崎県市長会長

結成50周年記念特別功労者表彰

宮崎県知事表彰

宮崎県老人クラブ連合会会長表彰

受賞者代表謝辞

会場のようす

記念講演　三遊亭歌之介　師匠

第10回さんさんクラブ宮崎スポーツ大会 （平成23年10月19日　県総合運動公園）

開会式

始球式

ゲートボール

四半的弓道

グラウンド・ゴルフ

ペタンク

第45回さんさんクラブ宮崎作品展示会 （平成23年12月20日～21日　宮崎市民プラザ）

オープニング式

知事賞表彰

展示場

体験コーナー

さんさんクラブ宮崎
50年を振り返る

Sunsun Club Miyazaki
The 50th anniversary

旧綱領

宮崎県老人クラブ綱領

一、われらは　常に　心身の健康保持につとめ　役立つ老人となりましょう。

一、われらは　常に　道義を守り　社会福祉の増進につくしましょう。

一、われらは　常に　笑顔で　家庭の平和と　社会への善意とに　心がけましょう。

一、われらは　常に　報恩感謝の気持を忘れず　お互に慰め合い　励まし合いましょう。

一、われらは　常に　身だしなみに気をつけ老人としての教養をたかめましょう。

（昭和四十一年九月制定）

旧綱領制定の経緯

旧綱領は、昭和41年9月に制定されているが、初代事務局長の桑原杳氏の回顧記録によると、制定までには相当の経緯があったようである。

まず、当時の鹿島透会長以下起草委員会7名の理事が起草委員として選出され、2日間をかけて委員が慎重に協議し、成案を県当局に示すとともに、学識経験理事であった宮崎大学教授綾哲一氏の校閲を受け、同教授の「申し分なし」との評価を得たとある。当時、老人クラブが発足したばかりで、この種の綱領も全国に無かった時代で、あくまでも慎重を期して鹿島会長と桑原事務局長が上京し、全国老人クラブ連合会灘尾弘吉会長の承認を受けた。

灘尾会長は「現在において、斯る老人クラブ綱領は全国に無い、正に全国に先駆けるものとして賞讃に値するものだ」とほめていただき、大いに面目を施して帰県したと記録にある。

会報「宮崎県百連会報」創刊号

県老連の前身である宮崎県百歳会連合会の会報「宮崎県百連会報」は、昭和39年6月22日に創刊号が出されました。松下友一会長の発刊のことばに、「今や、県内に八百に近い地域老人クラブが誕生し三十になんなんとする市町村老人クラブ連合会が結成され…(中略)…役員総会において年二回の会報発行の議決により、ここにその第一号を発刊することとなった。…」とあります。

百　連　会　報　　創刊号

宮崎県百連会報

創刊号

発行所
宮崎県百才会連合会事務所
宮崎市船塚町三
電話 ⑧4813番
印刷所
宮崎県教育会館印刷部

おとしよりの幸福のために

発刊のことば（老人福祉法の内容充実の歩み）

宮崎県百才会連合会長　松下友一

老人福祉法の生みの親ともいうべき、同法発布寸前の厚生大臣（今の文部大臣で全国老人クラブ連合会長）である灘尾弘吉さんは、左の如く言って居られる。

老人福祉法は、世界中類のない法律ではあるがその内容は貧弱である。その内容充実は、老人自身の力できずきあぐべきであると確信し、そのために、及ばずながらお世話役として、全国老人クラブ連合会長をお引受けした次第である云々。

尚又大臣は、今後、現代老人の在り方に対し、老人道を樹立することの必要なることも述べて居られる。私達は、この趣旨を体して、全国の地域老人クラブは申すまでもなく、市町村及び府県連合会が縦横の連絡協調により、強力にその機能を発揮することの必要を痛感するものである。

今や、県内に八百に近い地域老人クラブが誕生し三十になんなんとする市町村老人クラブ連合会が結成され、何れも老人福祉法の普及推進に努めつつあるが、その連絡協調の方策は中々容易なことではない。幸にして去る三月二十四日の県百才会連合会役員総会において年二回の会報発行の議決により、ここにその第一号を発刊することとなった。経費等の都合もあり誠に貧弱なものであるが聊かなりともこの会報がその目的達成のための一助ともなり、又わたしたち老人団を指導して下さったり、御協力頂いて居る方々の御参考にもならば、この上もない仕合せに存ずる次第である。

更に敢えて念願する所を申述べさせて頂くならば、老人福祉法の理念の社会への啓発、普及、徹底を始めとして、老人の心身の健康保持、老後生活安定の為めの保障の確保、今後の社会生活における老人の在り方を方向づける為めの生活内容の更新と拡大、乃至多年の経験に基く老人知能の社会的寄与、その他一切の老人福祉施設の充実に及ぶ諸問題をその十全な効果と事象の真実性とにおいて解決すべき老人クラブの使命は重且つ大であるが、それが為めには、小は各地域クラブ、市町村連合クラブを始めとして、大は県及び全国的組織に及び、更に全世界の老人クラブが親善友好の手をとり合っての提携協力のもとに、真摯且つ熱心な研究と実践とを兼ねてゆくべきは言を俟たない。かくて内には老人層をして、仕合わせな人生への再出発に活歩せしめ、外には内外老人愛の一体活動により、世界平和促進への力とも進展せんことは私共の渇望措く能わざる所、茲に本会報がささやかながら皆様の御協力により、老人福祉への使命達成のために活用せられんことを希って止まない次第である。

宮崎県老人クラブ連合会の組織の変遷

1 老人クラブの誕生

老人クラブは戦後間もない昭和25年頃、高齢者自らが相集う自主組織として誕生し、次第に全国各地で老人クラブがつくられていった。全国社会福祉協議会の調査によると、昭和29年の老人クラブ数は112であったが、昭和33年には2,400クラブ、昭和36年には9,755クラブ、79万人余の会員数と急速に増加した。昭和32年には大阪市と徳島県において老人クラブ連合会が設立され、以後、各地で連合会組織の設立が相次いだ。

宮崎県内の老人クラブも、高齢者が自主的に高齢者福祉の増進を図るために、市町村地域において長寿クラブ、仲良しクラブなどの名称で自主団体が誕生した。都城市では、昭和29年9月24日に「長生会」という名称で、市の連合会組織が発足し、昭和38年に都城市老人クラブ連合会と改称している。また、町村では昭和36年10月5日に諸塚村に寿会連合会が設立され、次いで昭和36年10月17日に川南町に長寿会連合会の名称で連合会組織が設立された。

第1回宮崎県老人クラブ大会
(昭和51年2月20日　宮崎市民会館)

2 県老連の結成

老人クラブの県組織は、昭和33年3月に宮崎市ほか数カ市町村による宮崎県百歳会(会員500名)が結成されている。その後、昭和36年12月1日に宮崎市福祉会館において宮崎県老人団体連合会の名称のもとに、宮崎市、都城市、延岡市が発起人となり、3市15町村20団体が参加し、「宮崎県百歳会連合会」が新しく結成された。宮崎県老人クラブ連合会(宮崎県老連)が50周年を迎える起点は、この日に寄っている。

昭和38年の老人福祉法の施行により、既存の百歳会は老人クラブへと改組され、宮崎県百歳会連合会も発展的に解消されて、同法の施行とともに宮崎県老人クラブ連合会と改称された。

昭和40年6月には、宮崎市民会館落成式の日に同会館において県下各地域の老人クラブ代表者、市町村関係職員、県・市福祉事務所、民生委員等ほか約2,000名が一堂に参集し、初めての宮崎県老人大会が盛大に開催された、と記録されている。

県内各市町村では逐次クラブが結成され、市町村ごとに連合会組織ができるまでとなった。また、町村連合会においては、次第に郡を単位とした郡連合会を結成し、県内全域にわたって市・郡連合会の組織をみるに至った。

3 県老連の財団法人化

県老連は結成以来、市町村老人クラブ連合会、単位老人クラブの連絡調整、未組織地域の組織化促進、既成クラブに対する指導育成にあたるとともに、高齢者福祉の種々の問題と取り組んできたが、さらに連合会組織を確立して高齢者福祉の向上を図るために、関係者の間において法人化が進められてきた。

昭和49年5月18日に「宮崎県老人クラブ連合会法人化促進協議会」が設置され、財団法人の設立が決議された。財政面については、法人化促進協議会名において募金を募り、その募金を法人基本財産として県老連へ寄附することが決定された。この決定を受け、法人化促進協議会により会員数、地域財政の事情、企業数に応じた市町村老連への募金依頼や県下の企業への特別募金の依頼を行うなど、財源確保のための努力がなされた。その後、法人化促進協議会は解消されると同時に「財団法人宮崎県老人クラブ連合会設立委員会」が設置され、昭和50年3月1日に宮崎県知事に財団法人設立の申請がなされた。4月18日付けで設立が許可され、4月23日に財団法人が設立された。

4 公益財団法人への移行

民法に公益法人制度が規定されて以来、110年ぶりに公益法人制度改革が行われ、平成20年12月1日関連法が施行された。これにより、従前の公益法人は公益法人か一般法人か、いずれかを選択し、平成25年11月30日までに移行手続きを行う必要に迫られた。

宮崎県老連も全国、九州各県・指定都市老連の動向をみながら、主に総務委員会で検討を重ね、公益財団法人への移行認定申請を行うこととなった。以後、新たな組織に向けて役員体制の見直し、定款・関連規程の検討、新たな公益法人会計基準の導入等移行準備を進めた。

最終的には、平成23年11月8日に臨時理事会・評議員会を開催し、新公益財団法人を設立することを決定した。平成23年11月29日に宮崎県知事へ移行認定申請を行い、平成24年4月1日付けで新たに「公益財団法人宮崎県老人クラブ連合会」を設立するに至った。

第36回宮崎県さんさんクラブ大会
― 結成50周年記念大会 ―
（平成23年8月18日　宮崎市民文化ホール）

第32回全国老人クラブ大会

老人福祉法40周年・老人保健法20周年記念「第32回全国老人クラブ大会」が、平成15年11月26日から27日にかけて全国から2,200名の参加者を迎えて宮崎市フェニックス・シーガイア・リゾートで開催されました。

第1日目は、「健康をすすめる運動」「在宅福祉を支える友愛活動」「会員加入促進」など7つの研究部会に分かれて協議され、2日目は総会・式典が催されました。全国大会で初めて実施された「参加者交流のタベ」には、1,100名もの多くの会員・関係者が参加して交流を深めました。

事前からの準備作業や大会当日のスタッフあるいは大会の参加者として、また、交流のタベや2日目のアトラクション等の出演者として県下市町村老連一体となって取り組みました。

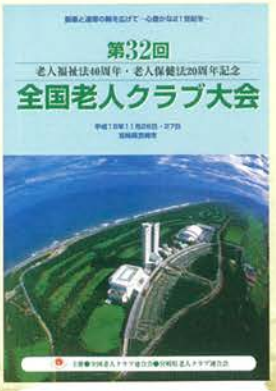
式典

研究部会

研究部会

参加者交流のタベ

オープニング



九州ブロック老人クラブリーダー研修会

九州各県・指定都市の10老人クラブ連合会による九州ブロック老人クラブリーダー研修会は、昭和50年に宮崎県で第1回研修会が開催されて以降、毎年各連合会輪番で担当して開催されています。

昭和60年度研修会　昭和60年7月9日～11日

青島橘ホテル　懇親会風景

平成7年度研修会　平成7年7月11日～13日　宮崎観光ホテル

平成17年度研修会　平成17年7月12日～14日　シェラトン・フェニックス・ゴルフリゾート

基調報告　全老連　齊藤秀樹　事務局長

創作発表活動（演じる）

講演　伊藤一彦　県立看護大学教授

ねんりんピック'96宮崎地域文化伝承館

全国高齢者のスポーツと文化の祭典「ねんりんピック'96第9回全国健康福祉祭みやざき大会」は、平成8年11月9日から12日にかけて宮崎県総合運動公園で開催されました。県老連は、全国老人クラブ連合会とともに地域文化伝承館を開設し、九州ブロック各県・指定都市老人クラブ連合会からの協力も得て、老人クラブ会員が日頃から取り組んでいる多彩な伝承芸能や生きがい活動の発表、伝統技術の実演展示を行いました。

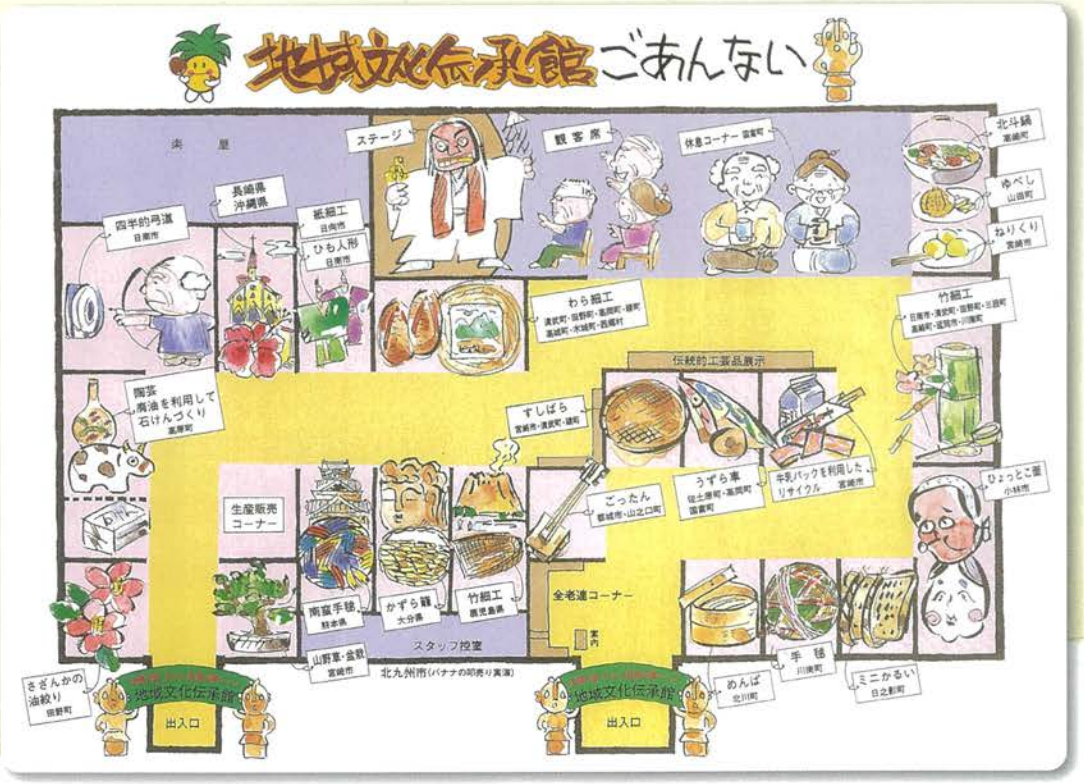
会期中の3日間はあいにくの悪天候で、雨水の流れ込みなど大変な苦労がありましたが、2万人を上回る多くの入館者を記録しました。

開会式　テープカット

時任会長が常陸宮殿下・同妃殿下を会場案内

体験コーナー

スタッフ一同



「世界ベテランズ大会」で高齢者の知恵と技を紹介

平成5年10月にアジア地域で初めての世界ベテランズ陸上競技選手権大会が宮崎県で開催されるのを機会に、日本の伝統文化・技術の紹介を通じて世界各国の来県者と高齢者の国際的な交流を図るために、10月13日、15日の両日に県総合運動公園の会場に「シニア国際ふれあいコーナー」が開設されました。県老連は高齢者の知恵と技を紹介し、コーナーで用意した竹とんぼ、竹笛、折り紙、お手玉などはすべて無くなるほどの多くの来場者がありました。また、同運動公園で10月13日に開催した第16回のゲートボール大会と四半的弓道大会では、シニア国際ふれあい事業としてベテランズ大会の外国人選手を交えての交流を行いました。

シニア国際ふれあいコーナー

四半的弓道での交流

折り紙紹介

「人権フェスタ2002みやざき」地域文化伝承・体験コーナーを設置

平成14年10月13日から14日にかけて、法務省・文部科学省・全国人権擁護委員会・宮崎県などによる「人権フェスタ2002みやざき」がシーガイア・ワールドコンベンションセンターサミット及びイベント広場で開催され、全国から3万7千人の参加者がありました。

県老連は、イベント広場に「地域文化伝承・体験コーナー」を設置して、参加者との交流を行い、好評を博しました。

地域文化伝承・体験コーナー

愛称が「さんさんクラブ宮崎」に

老人クラブのイメージアップとクラブの活性化、仲間の輪を広げるために、県老連では「宮崎県老人クラブ連合会」の愛称を広く県民から募集し、「さんさんクラブ宮崎」に決定しました。

平成14年12月から翌15年の3月までの応募期間に、9歳から94歳までの911人もの多くの応募がありました。「さんさんクラブ宮崎」での同一名称で6人の応募があったため、最優秀賞は抽選で宮崎市の三浦眞志さんに決定し、平成15年6月30日に宮崎市民プラザで表彰式が行われました。

さんさんクラブ宮崎

県老人ク愛称決定

県老人クラブ連合会（清山義美会長）は、イメージアップや会員増を目的に広く募集していた愛称を「さんさんクラブ宮崎」に決定、宮崎市の市民プラザで三十日、表彰式を開いた。会員ら約四十人が出席、清山会長から入賞者三人に表彰状と記念品が贈られた。

最優秀賞の「さんさんクラブ」には六人が応募。抽選の結果、同市生目台東の無職三浦真志さん(六)が受賞した。「南国宮崎を象徴する太陽の光が、さんさんと降り注ぐ（輝く）ような人生をイメージを連想させる」というのが決定の理由だった。

三浦さんは「文章を考えていた時、たまたま『さんさんと光の輝く太陽』というフレーズが出てきて、ピッタリだと思った。まさか入賞するとは」と喜んでいた。同会の桑原五男事務局長は「今年は全国老人クラブ大会も宮崎市で開催される。これを機に、クラブ活動をますます活性化させたい」と話していた。

募集は昨年十二月から今年三月末までで、九百十一人が応募。優秀賞には田野町甲の主婦由川かよさん(六四)の「さわやかクラブ宮崎」（応募者数三人）と、木城町高城の無職永友鐵夫さん(六七)の「ゆうゆうクラブ宮崎」（同五人）が選ばれた。

県老人クラブ連合会の愛称募集で入賞した（左から）永友さん、三浦さん、由川さん

宮崎日日新聞

さんさんクラブ宮崎

南国宮崎を象徴する太陽の光がさんさんとふりそそぐ(輝く)ような人生を送りたい。また、そのようなクラブの目標を掲げて努力したい。

雑記帳

◇宮崎県老人クラブ連合会の愛称が「さんさんクラブ宮崎」に決まり、宮崎市で30日、命名者らの表彰式があった。老人クラブが愛称を持つのは九州では初めて。

◇高齢化が進む一方、「老人」という言葉への抵抗感から老人クラブ会員は減少傾向。「少しでも参加しやすく」と名称を募ったところ、9～94歳の計911人が応募した。

◇込められた願いは「太陽の光がさんさんと降り注ぐような人生を送ろう」。事務局は「親しみを持って呼んでもらえれば」と、南国ムード満点の愛称に期待。【谷本仁美】

平成15年7月1日　毎日新聞

新綱領の制定

旧宮崎県老人クラブ綱領は、昭和41年9月に全国に先駆けて定められましたが、長年の歳月が経過して老人クラブをとりまく環境や老人クラブの役割も大きく変化してきたことから、宮崎県老人クラブ連合会の愛称募集と合わせて新綱領の検討がなされました。

見直しに当たっては、県老連役員のほか、県、県社協、長寿社会推進機構を加えた「綱領見直し委員会」が設置され、平成14年10月から15年5月にかけて検討され、平成15年6月3日に新綱領が制定されました。

(新綱領は、本誌巻頭に掲載)

子どもの見守りで県教育委員会と覚書締結

全国的に不審者による児童への声かけや学校への侵入などの事案が発生し、子どもが犯罪に巻き込まれる事件が絶えないことから、県老連は平成17年2月15日に県教育委員会と「児童生徒の安全確保に関する覚書」を締結して、児童・生徒の安全を確保するための取り組みを推進することにしました。

覚書の締結は、宮崎県知事立会いのもと、知事室で県老連清山義美会長と高山教育長が覚書に調印しました。

子供保護 高齢者も協力

県内全域パトロール

児童への声掛け事案や学校への不審者侵入を防止するため、県教委と県老人クラブ連合会（清山義美会長、八万五千人）は十五日、「児童生徒の安全確保に関する覚書」を締結した。高齢者による安全パトロールなど子供を守る活動を、県内全域で推進するのが狙い。

県教委によると、県レベルで覚書を締結するのは全国で初めて。

県教委では声掛け事案増に加え、子供が犯罪に巻き込まれる事件が絶えないことを受け、昨夏から同連合会と締結に向け協議。県内各地で取り組みが始まった高齢者のパトロール活動を県内全域に広げることになった。

同連合会は今後、県内の千五百八十クラブに、登下校時の通学路で児童を見守る安全パトロールなどの実施を求める。

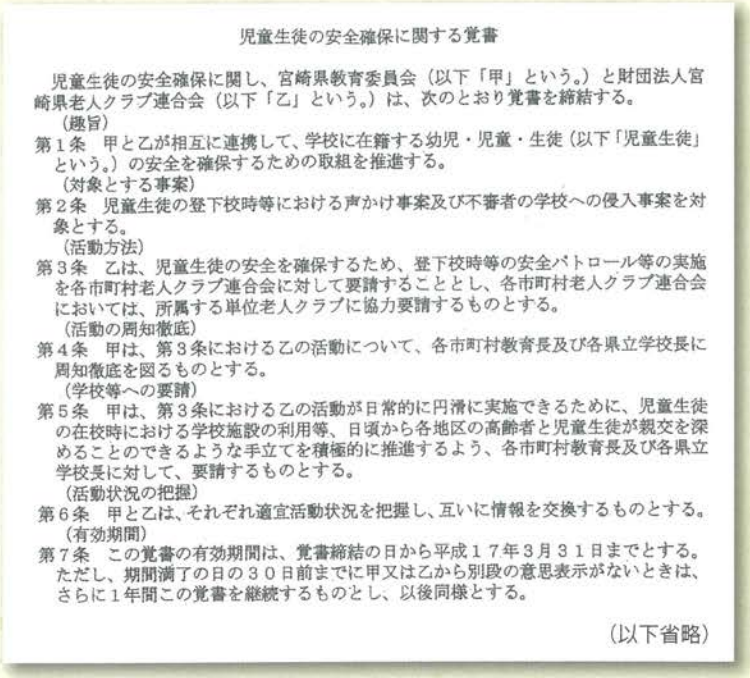
県教委は、小、中、県立学校に対し、地域ごとに老人クラブとの連携を図るよう周知徹底する。

また、老人クラブの空き教室活用など、高齢者が学校施設を利用できる環境を整えるよう要請。学校への不審者侵入防止にも力を注ぐ。

調印式は同日、知事室であり、高山教育長と清山会長が覚書に調印した。

県老人ク連、県教委と覚書

平成17年2月16日　宮崎日日新聞



児童生徒の安全確保に関する覚書

児童生徒の安全確保に関し、宮崎県教育委員会（以下「甲」という。）と財団法人宮崎県老人クラブ連合会（以下「乙」という。）は、次のとおり覚書を締結する。

（趣旨）

第１条　甲と乙が相互に連携して、学校に在籍する幼児・児童・生徒（以下「児童生徒」という。）の安全を確保するための取組を推進する。

（対象とする事案）

第２条　児童生徒の登下校時等における声かけ事案及び不審者の学校への侵入事案を対象とする。

（活動方法）

第３条　乙は、児童生徒の安全を確保するため、登下校時等の安全パトロール等の実施を各市町村老人クラブ連合会に対して要請することとし、各市町村老人クラブ連合会においては、所属する単位老人クラブに協力要請するものとする。

（活動の周知徹底）

第４条　甲は、第３条における乙の活動について、各市町村教育長及び各県立学校長に周知徹底を図るものとする。

（学校等への要請）

第５条　甲は、第３条における乙の活動が日常的に円滑に実施できるために、児童生徒の在校時における学校施設の利用等、日頃から各地区の高齢者と児童生徒が親交を深めることのできるような手立てを積極的に推進するよう、各市町村教育長及び各県立学校長に対して、要請するものとする。

（活動状況の把握）

第６条　甲と乙は、それぞれ適宜活動状況を把握し、互いに情報を交換するものとする。

（有効期間）

第７条　この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成１７年３月３１日までとする。ただし、期間満了の日の３０日前までに甲又は乙から別段の意思表示がないときは、さらに１年間この覚書を継続するものとし、以後同様とする。

（以下省略）

【さんさんクラブ大会（老人クラブ大会）】

第1回宮崎県老人クラブ大会は、昭和51年2月20日に宮崎市民会館で開催されました。現在は、宮崎県さんさんクラブ大会と名称を変え、平成23年の結成50周年記念大会で36回目を迎えました。

第6回大会　県老連会長表彰（単位クラブ表彰）
（昭和56年　宮崎市民会館）

老人福祉法制定20周年記念大会
（昭和58年10月5日　宮崎市民会館）

老人福祉法施行30周年記念　老人保健法施行10周年記念
第18回大会（平成5年9月29日）

第21回大会　マスコットキャラクターも登場
（平成8年9月5日　宮崎市民会館）

国際高齢者年記念　第24回大会（平成11年8月25日　宮崎市民会館）

第30回大会　記念講演（平成17年11月2日　宮崎市民会館）

第26回大会　交通安全ファッション
（宮崎市老連）

第26回大会
アトラクションは「高齢者の交通安全」がテーマ
（平成13年8月30日　宮崎市民文化ホール）

第34回大会　宮崎県知事表彰
（平成21年8月25日　宮崎市民文化ホール）

第35回大会　口蹄疫被害からの復興を目指して
「がんばろう宮崎」の懸垂幕
（平成22年8月27日　宮崎市民文化ホール）

研修会のあゆみ

県老連では、会員の生きがいと教養を高め、また、指導者を養成するために各種の研修会を実施してきました。

交歓研修会風景（児湯郡管内）

老人クラブ指導者研修会
（昭和50年11月14日　日向市老人福祉センター）

単位老人クラブ指導者研修会（昭和61年）

市町村老人クラブリーダー研修会（昭和61年　宮崎市青島国民宿舎）

市町村老人クラブリーダー研修会（青島国民宿舎）

（昭和63年6月28日）

（平成元年6月28日）

（平成6年6月22日）

第1回市町村老連婦人リーダー研修会
（平成3年8月28日　宮崎市あおしま太陽閣）

シルバーボランティア女性リーダー研修会
（平成8年7月31日　宮崎市あおしま太陽閣）

県央地区　高齢者友愛訪問支援研修会（平成9年11月20日）

西都・児湯地区　訪問支援活動推進リーダー研修会
（平成14年7月4日）

県央地区　訪問支援活動推進リーダー研修会
（平成16年7月26日）

県南地区
シルバーボランティアリーダー研修会
（平成21年7月31日）

西都・児湯地区　シルバーボランティアリーダー研修会（平成23年1月19日）

【研修会のあゆみ】

市町村さんさんクラブリーダー研修会（平成23年6月15日～16日　宮崎市青島観光ホテル）

県北地区シルバーボランティアリーダー研修会
（平成23年8月12日）

西諸地区シルバーボランティアリーダー研修会
（平成23年8月3日）

滋賀県老連との交流会
滋賀県高齢者洋上セミナー「レイカディアの船」が宮崎港に寄港、洋上で交流会が行われました
(平成4年11月26日)

女性部視察研修
宮崎県老連女性部役員が長崎県大村市老連女性部リーダー研修会に参加、会場で新燃岳被害に対する義援金の寄贈を受けました
(平成23年3月16日　大村市総合福祉センター)

【会議の開催】

市町村老連女性部長・事務局長等会議（平成23年4月26日　県福祉総合センター）

公益財団法人移行を審議する臨時理事会・評議員会（左：理事会　右：評議員会）（平成24年11月8日　県福祉総合センター）

【作品展示会】

県老連の第1回作品展示会は昭和42年に宮崎県教育会館で開催され、平成23年の展示会で第45回を迎えた歴史ある催しです。現在も、書、絵画、彫刻、工芸、手芸、写真、一般の部門に県内から多くの力作が出品されます。会場では、例年、市町村老連の協力を得て、わら細工・竹細工、各種手芸品などの伝承・体験コーナーも設けており、来場者に大変喜ばれています。

第9回作品展示会・即売会
（昭和50年11月23日　宮崎市自治会館）

百寿コーナーオープン（昭和52年7月4日　宮崎市寿屋百貨店）

当時のPRチラシ

老人と子どもをつなぐ作品展（昭和55年10月4日　宮崎市寿屋百貨店）

以前は即売会コーナーもありました（平成3年）

第27回作品展示会（平成5年12月13日　県福祉総合センター）

第31回作品展示会（平成10年1月19日　宮崎中央郵便局）

第36回作品展示会（平成14年12月17日　宮崎市民プラザ）

第36回作品展示会（平成14年12月17日　宮崎市民プラザ）

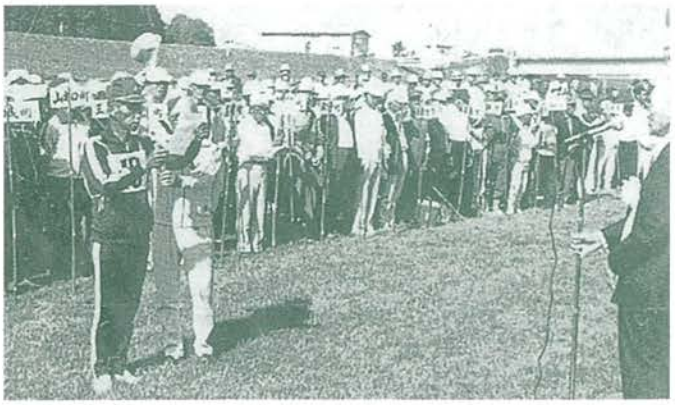
伝承・体験コーナー（平成20年12月18日～20日　宮崎市民プラザ）

第44回作品展示会
（平成22年12月17日　宮崎市民文化ホール）

宮崎県知事賞表彰式　ねんりんフェスタ会場
（平成22年12月17日　宮崎市民文化ホール）

【スポーツ大会】

県老連の最初のスポーツ大会は、昭和47年11月7日に県内5ブロックで開催され、延べ7千人が参加したと記録されています。第1回と銘打っての大会は、昭和53年10月6日に、宮崎市大淀川スポーツセンターで開催されました。当初はゲートボール、四半的弓道の2種目でしたが、現在は、グラウンド・ゴルフ、ペタンクを加えた4競技種目を同時に県総合運動公園で開催しています。



第1回ゲートボール・四半的弓道大会（昭和53年10月6日　宮崎市大淀川スポーツセンター）

第4回ゲートボール・四半的弓道大会（昭和56年10月30日　県総合運動公園）

第9回ゲートボール・四半的弓道大会（昭和61年10月3日　県総合運動公園）

第12回ゲートボール・四半的弓道大会表彰式
（平成元年10月5日　県総合運動公園）

第14回四半的弓道大会での射礼
（平成3年10月23日　宮崎市中央公園）

第1回スポーツ大会（ゲートボール・四半的弓道・グラウンド・ゴルフ・ペタンクの4種目で始める）（平成14年10月9日　県総合運動公園）

第1回スポーツ大会　グラウンド・ゴルフ

第1回スポーツ大会　ペタンク

第4回スポーツ大会選手宣誓
（平成17年10月13日　県総合運動公園）

第6回スポーツ大会始球式（平成19年10月4日　県総合運動公園）

【健康づくり事業】

県老連では、いつまでも健康であり続けるために、スポーツ大会のほか様々な健康づくりの事業に取り組んできました。

病いにかからぬ運動　薬草見本園の設置奨励
（昭和52年4月　宮崎市池内町老人クラブ）

第7回宮崎県老人クラブ大会　「病いにかからぬ運動の推進」の懸垂幕が
（昭和58年2月24日）

シルバーボランティア女性リーダーブロック研修会
いきいきクラブ体操の普及（平成8年2月）

医療と薬に関する研修会（平成11年）

公式輪投げの講座

健康づくりアドバイザー研修会（平成15年6月20日　門川町）

スポーツマスター研修会（平成13年1月21日・22日　宮崎市・門川町）

市町村老連マスター研修会（平成20年7月17日　国富町）

健康づくり市町村リーダー研修会（平成23年2月16日　県武道館）

健康ウォーキング　平成22年度・23年度モデルクラブ
（日南市大堂津・上高齢者クラブ「渚会」）

健康ウォーキング　平成23年度モデルクラブ
（都城市乙房高齢者クラブ）

健康づくりスキルアップリーダー研修会（平成24年2月23日～24日　宮崎市民プラザ）

老年開発講師団派遣事業

本事業は、高齢者の潜在能力を引き出し、あわせて健康の増進と生きがいを高めることを目的に、あらかじめ講師団を登録しておき、市町村老連がおこなう行事に、それぞれの分野に応じた講師を派遣するもので、昭和48年から始まった歴史のある事業です。現在、健康管理、教養、文化、社会活動、家庭生活の5部門で53名の講師団を編成しています。

西都市高連の行事へ派遣

老年開発講師団綱領

われらは，老人福祉法の精神にしたがい，研修を通じて，しあわせをはかるとともに明るい老後をひらくための指針となるようこの綱領を定める。

1…… 常に自らの健康保持増進への関心を高め、健やかな老後づくりを進めよう。

1…… 自らの豊かな知識と経験を再開発し，積極的に社会参加をはかり、明るい老後づくりを進めよう。

1…… 時代を生きぬくたくましい心を培い，生きるよろこびを求め、楽しい老後づくりを進めよう。

1…… 自らの心を豊かに育み，あたたかい人間関係に満ちた家庭づくりを進めよう。

1…… 福祉の心をひらき，美しく，住みよい，豊かな郷土づくりを進めよう。

昭和４８年１０月制定

地域文化伝承事業
高齢者の知恵と技(くらしの名人)普及・活用事業

県老連では、地域に伝えられる文化、伝統芸能などの伝承に努めています。県さんさんクラブ大会では伝統芸能の伝承に取り組む老人クラブや保存会などによる発表の機会をつくり、作品展示会では、伝統工芸品や手芸品などの製作に秀でた高齢者が指導して、来場者が直接作品づくりを体験できるコーナーを設置しています。

また、平成4年から、優れた技能を有する会員を「くらしの名人」として認定し、市町村の老人クラブが行う行事に名人を派遣する「高齢者の知恵と技(くらしの名人)普及・活用事業」を実施しています。現在272人の名人を認定しています。

宮崎県さんさんクラブ大会・伝統芸能発表
(平成22年8月27日　青島臼太鼓踊り保存会)

さんさんクラブ宮崎作品展示会「伝承・体験コーナー」
(平成21年12月19日　日之影町老連)

【「老人の日・老人週間」「社会奉仕の日」の推進】

県下の老人クラブでは、全国三大運動である「健康」「友愛」「奉仕」を柱にさまざまな活動を推進していますが、9月15日の老人の日から21日までの老人週間には全国の老人クラブで一斉に運動を展開しています。

特に全国一斉社会奉仕の日(9月20日)を中心として、宮崎県でも県下の老人クラブが一斉に、環境美化、施設訪問、子どもの見守り活動など様々な奉仕活動に取り組んでいます。

平成23年は全県内で12,308名の会員が活動に参加しました。

平成23年度　活動風景

(高鍋町　小丸出口生きいきクラブ)

(椎葉村　尾前年輪会)

(高千穂町　上寺きんぎん会)

(小林市　細野一西クラブ)

【指定旅館・ホテル事業】

宮崎県老連では、会員の学習、研修、仲間づくりの交流の場に資するために、九州内の旅館・ホテルと指定契約を結んで会員の便宜を図っています。

この事業は平成14年から開始し、現在の指定施設数は、15施設です。

●各指定旅館・ホテルには上図のような登録証を玄関又はフロントに掲示してあります。

活動事例集の発行（昭和53年～56年）

第1集　第2集　第3集　第4集

ふるさとへの遺産
老人たちの手づくり文集が完成

県内の老人クラブ会員の手づくり文集「ふるさとへの遺産」第四集ができあがった。県老人クラブ連合会（谷口盛行会長）が毎年一回発行している冊子でA4判二四七㌻。老人クラブ活動の事例を中心に編集している。

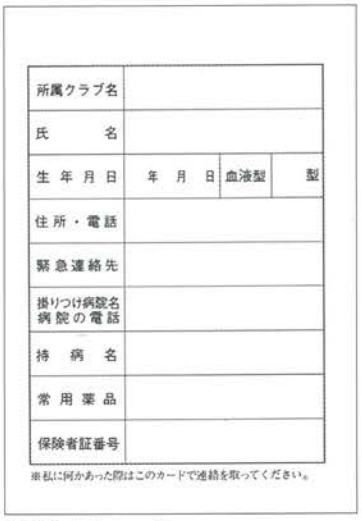
老人クラブ活動は会員相互の親ぼくや啓発事業が主となるのは当たり前のことだが、第四集の特色は地域住民との交流をとりあげているところだ。高千穂町尾狩クラブは、郷里への遺産として桜の名所づくりを計画、いまでは小学校の遠足先に利用されるほど。東臼杵郡北浦町の寿クラブは、小学校と共同企画で手づくりたこ揚げを試みたり、清武町クラブ婦人部は町内全部の小、中学校、保育所へぞうきんを縫って贈ったり、地域とのかかわりを大切にしている姿がしのばれる。

こうした活動が孫たちの情操教育にも好影響しているわけで、第三章には「孫の眼」を特集。孫たちの、かわいらしい「おじいちゃん、おばあちゃん感想」三十九編が収められている。

クラブ会員相互の参考になるだけでなく、生活の知恵といってよい健康法を集めた第三章は、会員外でもためになりそうだ。八百円で一般にもわけてくれる。発行所は、宮崎市原町二ノ二三、県老人クラブ連合会。

宮崎日日新聞
（昭和57年2月11日付け）

シルバーカード作成

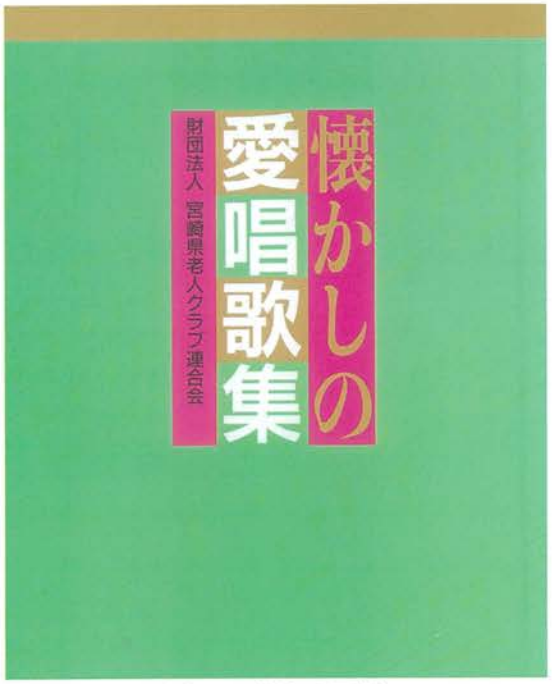


所属クラブ名			
氏　　名			
生年月日	年　月　日	血液型	型
住所・電話			
緊急連絡先			
搬りつけ病院名 病院の電話			
持病名			
常用薬品			
保険者証番号			

※私に何かあった際はこのカードで連絡を取ってください。

不慮の事故に備えて携帯するカード
5万枚作成　温泉入浴料等の特典付き
（平成2年）

歌集発行



初版　平成9年6月発行
完売する

会員加入促進パンフ・チラシ

パンフ「ことのは」
（平成13年）

一般県民向けチラシ
（平成19年）

友愛活動CD作成

（上：平成15年、下：平成17年）

県老連だより

第6号
（昭和43年9月）

第50号
（昭和63年10月）

第119号
（平成24年2月）

ホームページ

開設トップページ
（平成23年1月）

旧県老連旗

（昭和54年9月制定）

現在の県老連旗

（昭和57年に全老連が創立20周年を記念して
制定したシンボルマークに統一）

県老連の歴史を振り返って

小川

本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。歴代事務局長さん4名の皆さんにお集りいただいたわけですが、まずはそれぞれ事務局長をお努めになられていたときの印象深かった事業や、苦労された事柄などを、お話いただきますでしょうか。

村田

私は、昭和61年度から平成4年度までの7年間、事務局長を努めさせていただきました。私が就任した当時は、日本が世界第二位の経済大国になり、物質的な面では恵まれるようになりましたが、家庭環境の崩壊や、地域社会に置ける帰属関係の希薄化など、心の面で問題が生じ始めていました。このような問題を前にして、われわれ高齢者が地域の担い手となって、脇役から主役として一役買わなければならないのではないかという思いがありました。

そこで、県老連で昭和48年度から実施されている「老年開発講師団派遣制度」を強化し、会長・事務局長・指導員が3年間かけて各市町村をまわりました。

その流れで、平成4年度には、「高齢者の知恵と技普及・活用事業」と「高齢者相互支援啓発推進事業」を新規事業として行いました。

一つ問題としてあったのは、1億円基金問題でした。昭和50年度に県老連が法人として許可された際、先輩たちが自由財源として造成した1千万円ですが、時代が移り到底足りなくなっていました。そこで、県に補助金や助成金を陳情したところ、ある程度自力を付けたらいいのではないかということで、昭和63年に基金の増額を役員会に提案。その

後、紆余曲折を経て、平成5年度から基金を造成する運びとなりました。

森田

私は、村田さんの後を引き継いで、平成11年度まで事務局長を努めました。私が就任した平成5年度からはじまった1億円基金造成事業ですが、これは会員のみなさまに協力していただくことが必要でした。しかし、一部からは反対の声もあったため、あらためてお願いするために各市町村をまわりました。

こうしてはじまった基金の造成ですが、初年度の中頃になると基金の集まりが悪くなり、これは1億円は無理かなと一時は思いました。が、市町村老連会員の方々のご協力によって、平成8年の段階で9千5百万円が集まり、ほっとしたのを覚えています。

私の任期中で一番大きな出来事は、平成8年に開催された「第9回全国健康福祉祭みやざき大会」です。県老連では、シルバー地域文化伝承館を設けることになり、会場設置、運営費等の予算については、県が好意をもって協議・協力いただき、県内市町村老連、全国老人クラブ連合会の方々に伝承館内の設営、運営等にご協力いただきました。伝承館への入場者も2万人を超え、一番心配していた事故等もなく成功したことに、時任会長の喜びとほっとした顔が忘れられません。

事務局長として過ごした7年間は、毎日毎日が忙しい日々でしたが、とても充実したものでした。

桑原

私が事務局長だったのは、平成12年度から15年度までの4年間です。

事務局長時代を振り返って一番強く心に残っているのは、平成15年に開催された「第32回全国老人クラブ大会」です。自分でいうのもなんですが、苦労が報われたといいますか、大成功の大会だったと思っています。県からも全老連からも立派な大会だったと、お褒めの言葉をいただきました。

成功した理由を考えますと、一つはフェニックス・シーガイア・リゾートが会場だったことです。県外からは宿泊料などが高すぎるという意見もありましたが、「死ぬ前に一度くらいはああいうところに泊まるのもいいじゃないか」と、結構多くの会員が宿泊されました。

以前は、本大会前日の研究部会が、本大会とは場所を変えて行われていました。しかし、シーガイアの場合は、この部会と本大会が同じ場所で開催できたんです。そのため、「参加者交流の夕べ」を初めて実施することができました。本大会に参加した2,200名の半分以上が出席し、全国の会員の方たちとお酒を酌み交わして交流を図りました。こういったことが大会の盛り上がりにつながったのではないでしょうか。

高齢者を取り巻く環境も大きく変わってきている。時代に沿った事業活動が望まれている。

二つ目は、県内44市町村の老連が一体となって大会の運営に取り組めたからです。われわれ事務局には3名しかおらず、とてもこんなに大きな大会などできません。県内の各老連は「この大会は自分たちの大会だ」という思いで、会場受付・接客・空港出迎え、出し物やコーラス等々、積極的に参加運営に取り組みました。

もう一つ、行政に多大な協力をいただいたのも大きかったですね。全老連から「こんなに行政が協力を行った大会は過去にない」といわれるほど、全面的に支援をいただきました。

このほか、県老連の愛称募集(さんさんクラブ宮崎)なども思い出に残っている事業です。とにかく忙しい4年間でした。

田中

私が事務局長をしていました平成18年度から20年度にかけては、九州各県持ちまわりといった大きなイベントはなくて、皆さんの苦労話をお聞きして申し訳ないくらいです。

私なりにやってきましたのは、まず、「県老連だより」の全会員への配布です。県老連だよりは創刊時から単位クラブごとに配布されていたのですが、会費を払っている会員のみなさまに、なにか還元できるものがあればと考えて、当時7万2千名いた会員全員に配布することにしました。

発行部数を増やすということは、当然費用もかかるわけですが、県老連にはそんな余裕がありません。そこで、紙面に広告を掲載することでその費用を賄うことにしました。夏の暑い盛りだったのを覚えていますが、県内の名の通った企業をまわり、数社からご賛同をいただきました。出張で東京に行ったついでに、他県の県老連だよりに掲載されている企業に押し掛けたこともありました。これが平成18年度のことです。

その翌年に行ったのが、減り続けていた会員数を増やすための「プラス5%作戦」でした。宮崎県における老人クラブの会員数は、平成5年の8万8千名をピークに減少傾向にありました。この減り幅は全国・九州レベルでみても著しく、これは手をこまねいていてはいけないと考えたのがこの作戦です。

各単位クラブごとに会員数を5%増やしていこうという作戦だったのですが、プラス5%ということは30名の会員のクラブでは2名、50名のところでは3名と、大した数ではありません。単位クラブでも、うちは何名増やせばいいんだなと、具体的な数字を目標に掲げて取り組むことができます。

そのためにはまず、県民のみなさんに「老人クラブとはどういうものか」を知ってもらい、会員増のための土壌を作ることでした。県下37万3千世帯にチラシを配布、そして、チラシが行き渡った頃を見計らい、各市町村老連ごとに会員加入強化月間を設けて勧誘活動を実施しました。チラシの配布は翌年も行いましたが、初年度は全クラブ数の2割に当たる264のクラブがプラス5%を達成するなど、会員増加につなげることができました。

老人クラブの現状と課題について

小川

老人クラブの現状と課題について、みなさんの思われるところをお話しください。

田中

都市部の老人クラブと、町村部の老人クラブにかなりの違いがありますね。町村型のクラブでは、会長さんがほとんどすべての役割を担っているため、もしも会長さんになにかあったときには、クラブ自体が解散に追い込まれてしまう傾向が強いようです。

桑原

それはありますね。私は宮崎市の新興住宅地に住んでいるのですが、会長など役員のなり手はたくさんいます。私なんか何の役もなくて気軽なもんです。

これが都市部を離れると、役員をする人がいなくて、クラブがなくなっていくという話を聞きますので、ずいぶんと違うものだなと感じます。

田中

原因は単純だと思います。補助金の申請には事業計画や予算書を作らなければなならいのですが、書類を書くことに慣れていない人にとってはとても大変らしいです。こんな面倒なことなら、やらない方がいいということになる。グラウンド・ゴルフなら別に老人クラブでなくても出来るんだから、会議だ、研修だ、奉仕だ、そんなもの面倒くさいという訳です。パソコンに慣れた人が会にいるだけで、随分と戦力になるのですが…。

村田

都市部と田舎の違いでいけば、田舎では地元の高齢者同士のきずなは相当深い。都市部では生活様式の多様化もあって、それぞれの趣味が主体となった仲間で形成されています。したがってわざわざ会費を払って老人クラブに入る人が少なくなっています。

小川

会員の加入促進は喫緊の課題ですね。全国的に見ても、老人クラブの会員は減少傾向にありますが、宮崎県の場合はその傾向が著しい。なぜなのでしょうか。

森田

これは宮崎に限ったことではないのですが、会社勤めの人たちはゴルフなど、そこでの仲間と過ごす時間が多くてなかなか老人クラブには入ってこない。

田中

宮崎県全体で見ると会員は減少していますが、宮崎市だけでみるとそんなに減っていませんよね。それは、単位老人クラブが、自治会と表裏の関係にあるところが多いからだと思います。特に団地内の単老は、自治会の役員が作ったりしています。宮崎市老連は意識的にこのやり方を追求してこられました。

小川

会員減を食い止める突破口になるようなものはないものでしょうか？

森田

スポーツ大会やグラウンド・ゴルフなど、あれだけの人が集まるのだから、それぞれの地域の中でそういったイベントを行えば、まだ人が集まるのではないでしょうか。

70代でもパソコンを使える人はたくさんいる。そういう方を事務局員として育成していけばいい。

スポーツだけではなく、園芸など趣味の分野でも講座を行ってもいいのでは。

村田

地域ではグラウンド・ゴルフをされている人は本当に多いですね。みなさん、練習や大会を本当に楽しみにされています。足をひきずりながら参加する人も見かけます。私も、なにかお年寄りが楽しめることを実施すればいいのではないかと思います。

小川

私もそう思うのですが、60代の若い人たちに焦点をあてた場合、グラウンド・ゴルフなど既存のスポーツ種目だけでは果たして魅力的なのか、なにか今までにないイベントをしなければいけないのではないかと思ったりもします。

森田

スポーツだけではなく、園芸など趣味の分野で専門家を招いて講座などを行ってもいいのではないでしょうか。

田中

全老連の補助事業でウォーキングがありますが、沿道のゴミ拾いをしながらのウォーキングはどうでしょうか。ただの健康づくりではなく、ゴミ拾いという奉仕活動で若い人を取り込めないものでしょうか。

村田

老人クラブをはじめ、社協、自治会などさまざまな組織がそれぞれで活動を行っている。参加する方もあれもこれもでは、とても時間がなくて不可能です。それぞれの団体で個別に行われている活動を一本化できればよいのですが。

田中

県老人クラブ連合会段階で60代の会員による若手委員会みたいなものを作って、そこで議論をしなければ始まらないのではないでしょうか。そこで集まった人々が中心となってイベントをしてみるのもいいと思います。

小川

先ほど村田さんから少し話がありましたが、社協が行っているサロン活動などとの兼ね合いはどうでしょうか。以前、熊本の社協を訪問したことがあるのですが、サロン活動の中心は老人クラブでした。その点が宮崎とは大きく違うかなと。

会員の加入促進は喫緊の課題。

村田

先に話したように、老人クラブ・社協・自治会が話し合って、それぞれの役割を明確にする必要がある。その辺りを実態を深めながらやっていかなければならないでしょう。

桑原

高齢者社会を迎えて、県や社協も高齢者に対する取組みが広がっている。老人クラブに入っていなくても多種多様な地域活動の場があり、だれでも自由に参加できるように社会の仕組みが変わって来ている中、何か新しい役割を見つけていかなければならないのですが、なかなか難しいですね。

小川

職域の退職者グループがそのまま組織化されてさまざまな活動を楽しんでいる。そんな中で老人クラブの活動はどんどん難しくなって来ています。とっかかりとしては、やはり若手委員会でしょうか。

田中

市町村老連の事務局体制を確立することも大切です。私が局長をしていた当時は44市町村のうち、専任の事務局職員がいたのはたったの7つだけで、あとは社協の方が兼任されていました。それが市町村合併で社協の人員的余裕がなくなり、老連から手を引いてしまった。予想されたことですが、単位クラブの解散、会員数の減といった形で影響が表れているようです。財政も伴いますのでなかなか難しい問題ですが、老連の事務局体制の強化なくして単位クラブの増、ひいては会員増はないと思います。そのためにも若手委員会は必要ではないでしょうか。

桑原

事務局員を育成していくことが必要ですね。60代、70代でもパソコンを使える人はたくさんいます。そういう人をどんどん活用していけばいい。

田中

私の単位クラブにもパソコンを使える人はたくさんいます。作っている書類もすごい出来映えですよ。

村田

私が局長だった20年前は、年寄りは脇役といった考え方が多かったので、講師団を各地に派遣するなどして、自分たちが主役になろうという形のもとで盛り上がっていく時代でした。時代が移り、高齢者を取り巻く環境も大きく変わっています。この時代に沿った事業・活動を行っていかねばなりません。

田中

60代で老人クラブの会員になる人は本当に少ないです。私は、今60歳、65歳の人が70歳になった時、果たして老人クラブに入るのかということを危惧しています。

老人クラブは単なる健康クラブではありません。友愛・奉仕という崇高な理念のもと活動を行う団体です。私が全戸向けにチラシを作ったのはこのことを県民の皆様に今一度知ってもらいたかったからです。

その理念を、「まだ老人クラブは早い」と思っている60歳、65歳の方々に捲(う)まず撓(たゆ)まず知らしめていくことが大事なのではないでしょうか。それがあれば、もう70歳になった、そろそろ老人クラブに入る年だというときに、すんなりと老人クラブに入るということになるのではと思っています。

60代の会員で若手委員会を作って、
そこでさまざまな議論をしなければ始まらない。

50周年を迎えた市町村老連

県老連の結成50周年以前に50年を迎えた都城市、諸塚村、川南町の3老連を紹介します。これから50周年を迎える市町村老連も、機関誌「県老連だより」などで紹介していきます。

都城市高齢者クラブ連合会

会長　森山　勇二

●創立日　昭和29年9月24日

都城市高齢者クラブ連合会の歩みについて、前会長の瀬戸山杉夫さんにお聞きしました。

都城市では、昭和28年4月1日に、祝吉、早水ほか三地区で老人クラブが誕生し、昭和29年9月24日には都城市公会堂に約1千名が参加して、都城市長生クラブ連合会が結成されました。その後、昭和38年10月27日に創立10周年記念式典と併せて老人福祉法制定を祝う式典が開催され、長生会クラブ連合会は解散して都城市高齢者クラブ連合会と改称されました。この都城市の長生クラブ連合会が市町村の連合会組織では初めてのものと思われます。(市町村一円の組織化では、諸塚村老人クラブの昭和36年10月5日創立が最初のもの)

都城市高連は、平成18年に北諸県郡4町(山之口町、高城町、山田町、高崎町)との合併により、新「都城市高齢者クラブ連合会」として現在の連合会組織が誕生しました。

第40回大会

作品展示会（平成21年の風景）

活性化促進事業・講演会

恒例のミニボウリング大会

都城市の大きな行事といえば、何といっても「野外研修」と「ミニボウリング大会」です。県外へ1泊2日の宿泊「野外研修」は年に2回行われており、バス数台を貸し切っての大規模なもの。平成20年の萩、津和野の旅では総勢168名の参加がありました。

ミニボウリングは、全地区で盛んに行われていますが、平成23年で第9回目を迎えた連合会主催の大会は各地区からの選抜30チーム150名が競う大きな大会となっています。

作品展示会も県老連が第1回を開催した同じ昭和42年から開催され、平成23年で第42回目の展示会となりました。現在も多くの会員が出品して、連合会大会の開催時にロビーで同時に開催されています。

諸塚村寿会連合会

会長　田高　一志

●創立日　昭和36年10月5日

諸塚村寿会連合会の歩みについて、前会長甲斐忠重さんにお聞きしました。

諸塚村寿会連合会では、平成23年10月5日に諸塚村中央公民館で創立50周年の記念大会が盛大に開催されました。「老人福祉法制定20周年記念県老連の歩み」の中で初代の藤井長治郎会長が書かれた記録では、村一円の地域を網羅しての老人クラブ組織の誕生は、この諸塚村寿会連合会が最初とあります。

諸塚村は、現在もほとんどの高齢者が老人クラブに加入しており、加入率は郡を抜いて県内一となっています。諸塚村寿会連合会は、会の発足に尽力された藤井長治郎氏が初代会長に就任され、以来22年間にわたって会長として連合会の礎を築かれました。この藤井氏の「高齢者クラブは人造り、村造り」との信念のもと、諸塚村老連は当時としては先駆的な活動を展開してきました。

沿道、施設に主につつじを植栽し、村内を花で彩る花いっぱい運動は、その活動が引き継がれ、数年前まで品評会が行われ単位老人クラブや会員の表彰などが実施されていました。

また、家に残る民芸品、工芸品を寿会がが中心になって収集し、現在も村立民俗資料館の中に多くの品々が展示されています。村の歴史に関係する史跡顕彰碑も15基建立するなど、今日でもこのような文化的活動は引き継がれています。

平成23年10月5日　創立50周年記念大会

また1人暮らしの高齢者や県内施設入所者の訪問、県外への視察研修も長年積極的に取り組んできました。昭和40年には健康づくりのための「我らの信条」、「健康十訓」を制定しています。

諸塚村老連は、このような多彩な老人クラブ活動の功績により、平成18年11月3日に緑綬褒章を受章しました。さらに、機関誌「ことぶき」は昭和53年に創刊号が出され、以後、年一回発行され、号を重ねて現在32号近までが発刊されています。この機関誌は、主に会員がさまざまな思いを寄稿する記事となっており、毎回多くの方々から原稿が寄せられています。

緑授褒章受章記念碑

寿会会員が中心になって収集した村立民俗資料館の品々

川南町長寿会連合会

会長　髙尾　日出夫

●創立日　昭和36年10月17日

川南町長寿会連合会の活動は、なんといっても発足当時からサークル活動が盛んなことです。県老連の「高齢者の知恵と技普及・活用事業」による「くらしの名人」を活用しての四半的弓道、手まり、書、短歌、ちぎり絵、健康体操、民舞など、現在も毎月活発な活動がなされています。

また、川南町の国立療養所(現、国立宮崎病院)があったことから、黒木清次さんや谷村博武さんなど宮崎県の詩や小説の文化活動で宮崎県をリードしていた著名人が療養されており、これらの方々の影響で川南町では当時から文芸活動も活発で、長寿会連合会も機関誌「長寿への道」を発行してきました。今回、発足50周年を迎え、「長寿の道４」が発行されました。

女性部の研修活動も盛んで、本年3月7日には第18回目となる女性部研修大会を開催し、講演や事例発表など行いました。

川南町では平成22年4月に口蹄疫が発生し、長寿会会員を含む多くの町民の方が大変な被害を受けましたが、長寿会連合会では、町内の各種団体とともにいち早く義援金や消毒作業などの支援活動に取り組みました。この活動に対して、全国老人クラブ連合会会長が顕彰する「活動賞」(ボランティア部門)を受賞いたしました。

第47回大会　口蹄疫被害からの復興をスローガンに

てまり同好会

四半的弓道同好会

女性部研修大会

市町村老人クラブ連合会一覧

平成24年3月31日現在
（クラブ数・会員数は
平成23年3月31日現在の数）

	市町村老連名	会長名	郵便番号	事務局住所	事務局電話番号	クラブ数	会員数	設立年月日
1	宮崎市老人クラブ連合会	小倉　豊	880-0001	宮崎市橘通西1丁目1番2号 市民プラザ内	0985-61-9970	244	11,379	S39. 4. 1
2	都城市高齢者クラブ連合会	森山　勇二	885-0077	都城市松元町4街区14号 総合福祉会館内	0986-24-9700	166	8,256	S29. 9.24
3	延岡市高齢者クラブ連合会	杉野　初明	882-0055	延岡市山下町1丁目7-9 老人福祉センター内	0982-31-5375	172	7,153	S39. 11.12
4	日南市高齢者クラブ連合会	田中　茂芳	887-0021	日南市中央通1丁目1-1 保健福祉総合センター内	0987-22-5898	70	2,971	S38. 10. 1
5	小林市老人クラブ連合会	柊山　林一	886-0004	小林市細野382 老人福祉センター百歳会館内	0984-22-5231	66	3,534	S38. 10. 1
6	日向市高齢者クラブ連合会	眞弓　辰男	883-0035	日向市春原町1丁目80 老人福祉センター内	0982-52-6569	72	3,277	S37. 4. 1
7	串間市高齢者クラブ連合会	山内　正信	888-0001	串間市大字西方9365-8 総合保健福祉センター内	0987-72-6943	36	1,349	S39. 7. 1
8	西都市高齢者クラブ連合会	前谷　由忠	881-0004	西都市大字清水1048 総合福祉センター内	0983-43-3160	39	2,147	S38. 3.15
9	えびの市高齢者クラブ連合会	押領司　勲	889-4221	えびの市大字栗下沼田67 社会福祉協議会内	0984-35-2800	56	1,924	S46. 11.16
10	三股町老人クラブ連合会	正ヶ峯征男	889-1901	三股町大字樺山3384-2 総合福祉センター内	0986-52-1246	24	1,342	S38. 9. 1
11	高原町老人クラブ連合会	倉掛　喜有	889-4412	高原町大字西麓360-1 社会福祉協議会内	0984-42-2230	20	979	S38. 8. 1
12	国富町高齢者クラブ連合会	緒方　干城	880-1101	国富町大字本庄6889-2 社会福祉協議会内	0985-75-6721	28	1,112	S40. 5.28
13	綾町高年者クラブ連合会	永山　英男	880-1303	綾町大字南俣546-1 高年者研修センター内	0985-77-1133	21	885	S38. 11. 3
14	高鍋町高齢者クラブ連合会	飛田　博温	884-0002	高鍋町大字北高鍋300 社会福祉協議会内	0983-22-4076	20	1,000	S39. 11.18
15	新富町老人クラブ連合会	森松　好幸	889-1403	新富町大字上富田7485-4 老人福祉センター内	0983-33-4213	8	344	S39. 7.21
16	西米良村老人クラブ連合会	佐伯　正直	881-1411	西米良村大字村所66-1 社会福祉協議会内	0983-36-1212	9	253	S39. 4
17	木城町老人クラブ連合会	新見　秀澄	884-0102	木城町大字椎木2140-1 福祉センター内	0983-32-2114	16	770	S39. 4. 1
18	川南町長寿会連合会	髙尾日出夫	889-1301	川南町大字川南13680-1 健康福祉課内	0983-27-8008	20	968	S36. 10.17
19	都農町老人クラブ連合会	黒木　弘	889-1201	都農町大字川北4910 老人福祉館内	0983-25-0048	35	1,671	S38. 8. 1
20	門川町高齢者クラブ連合会	黒木　光男	889-0605	門川町庵川西6-60 総合福祉センター内	0982-63-7210	23	965	S39. 4. 1
21	諸塚村寿会連合会	田高　一志	883-1301	諸塚村大字家代3066 社会福祉協議会内	0982-65-0375	16	638	S36. 10. 5
22	椎葉村老人クラブ連合会	那須　清重	883-1601	椎葉村大字下福良1762-1 保健福祉センター内	0982-67-2275	16	535	S41. 5. 1
23	美郷町老人クラブ連合会	佐藤井野吉	883-0306	美郷町南郷区神門1075 南郷総合保健センター内	0982-59-0787	35	1,608	H18. 4. 1
24	高千穂町老人クラブ連合会	佐藤　定儀	882-1101	高千穂町大字三田井750-7 老人福祉館内	0982-72-3663	39	1,984	S39. 4.24
25	日之影町老人クラブ連合会	山口　敏雄	882-0401	日之影町大字七折8840 社会福祉協議会内	0982-87-2680	18	547	S39. 4. 1
26	五ヶ瀬町高齢者クラブ連合会	佐伯　博	882-1203	五ヶ瀬町大字三ヶ所10725-5 社会福祉協議会内	0982-82-1520	12	646	S43. 6.24
	計					1,281	58,237	

歴代会長

初代会長
松下友一
(昭和36.2～41.6)

2代会長
鹿島　透
(昭和41.6～47.3)

3代会長
別府徳弥
(昭和47.3～55.5)

4代会長
谷口盛行
(昭和55.5～平成2.5)

5代・9代会長
清山義美
(平成2.5～4.5)(平成9.4～19.5)

6代会長
河野　稔
(平成4.5～6.5)

7代会長

石井　正

(平成6.5～7.6)

8代会長

時任 ハツコ

(平成7.6～9.3)

10代会長

永井　順

(平成19.5～20.5)

11代会長

川越義郎

(平成20.5～22.5)

12代会長

小倉　豊

(平成22.5～現在)

歴代役員一覧

役職	財団法人設立時(昭和50年4月18日)		昭和50年度(5月～)		昭和51年度		昭和52年度	
顧問	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
会長	別府 徳弥	宮崎市	別府 徳弥	宮崎市	別府 徳弥	宮崎市	別府 徳弥	宮崎市
副会長	中原 定義	宮崎市	西山 尚	都城市	西山 尚	都城市	西山 尚	都城市
	西山 尚	都城市	牧野善五郎	延岡市	牧野善五郎	延岡市	甲斐猪三郎	延岡市
	牧野善五郎	延岡市	原口 幸吉	小林市	原口 幸吉	小林市	永山 勇助	高岡町
	原口 幸吉	小林市						
常務理事	小沢 真	事務局長	小沢 真	事務局長	小沢 真	事務局長	小沢 真	事務局長
理事	宮浦 一美	日南市	湯地 貞夫	宮崎市	湯地 貞夫	宮崎市	湯地 貞夫	宮崎市
	平賀 儀雄	日向市	宮浦 一美	日南市	宮浦 一美	日南市	宮浦 一美	日南市
	谷口 盛行	串間市	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市	西立野徳辻	小林市
	鬼塚 捨造	西都市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	成合和次郎	日向市
	松元仁右衛門	えびの市	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市	谷口 盛行	串間市
	永山 勇助	高岡町	松元仁右衛門	えびの市	別府 盛義	えびの市	河野 茂	西都市
	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	別府 盛義	えびの市
	山下 武義	北郷町	山下 武義	北郷町	隈本寅次郎	南郷町	湯地 明	清武町
	隅 清雄	高崎町	永山 勇助	高岡町	永山 勇助	高岡町	隈本寅次郎	南郷町
	桂木 直	野尻町	隅 清雄	高崎町	隅 清雄	高崎町	安田 財夫	高城町
	金丸 吉治	都農町	桂木 直	野尻町	桂木 直	野尻町	桂木 直	野尻町
	藤井長治郎	諸塚村	金丸 吉治	都農町	豊島 則武	新富町	豊島 則武	新富町
	富高 藤雄	高千穂町	藤井長治郎	諸塚村	藤井長治郎	諸塚村	藤井長治郎	諸塚村
	田内 市郎	県	富高 藤雄	高千穂町	富高 藤雄	高千穂町	富高 藤雄	高千穂町
	富高 憲晃	県社協	田内 市郎	県	田内 市郎	県	田内 市郎	県
	内田 醇	県医師会	富高 憲晃	県社協	富高 憲晃	県社協	富高 憲晃	県社協
	綾 哲一	宮崎女子短大	内田 醇	県医師会	内田 醇	県医師会	内田 醇	県医師会
			綾 哲一	宮崎女子短大	綾 哲一	宮崎女子短大		
監事	佐藤 治定	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市
	椎 雅好	〃	西山 尚	都城市	西山 尚	都城市	西山 尚	都城市
	門松 政哉	高岡町	甲斐猪三郎	延岡市	甲斐猪三郎	延岡市	柳田 銀作	延岡市

(注)資料不備のため不明

役職	昭和53年度		昭和54年度		昭和55年度		昭和56年度	
顧問	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
会長	別府 徳弥	宮崎市	別府 徳弥	宮崎市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市
副会長	湯地 貞夫	宮崎市	都築 秀男	宮崎市	都築 秀男	宮崎市	白坂 儀作	宮崎市
	西山 尚	都城市	馬場 清輝	都城市	馬場 清輝	都城市	馬場 清輝	都城市
	甲斐猪三郎	延岡市	甲斐猪三郎	延岡市	甲斐猪三郎	延岡市	佐藤 克巳	延岡市
	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町
	永山 勇助	高岡町						
常務理事	小沢 真	事務局長	佐伯 正	事務局長	佐伯 正	事務局長	佐伯 正	事務局長
理事	宮浦 一美	日南市	宮浦 一美	日南市	宮浦 一美	日南市	宮浦 一美	日南市
	西立野徳辻	小林市	西立野徳辻	小林市	西立野徳辻	小林市	西立野徳辻	小林市
	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市
	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市
	別府 盛義	えびの市	別府 盛義	えびの市	別府 盛義	えびの市	別府 盛義	えびの市
	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	門口幸三郎	南郷町	谷山 宗之	北郷町
	門口幸三郎	南郷町	門口幸三郎	南郷町	山口蔵右衛門	国富町	山口蔵右衛門	国富町
	山口蔵右衛門	国富町	山口蔵右衛門	国富町	比江島一夫	三股町	辺保 厚	山之口町
	谷口 新蔵	高城町	比江島一夫	三股町	桂木 直	野尻町	桂木 直	野尻町
	中園 広	山之口町	桂木 直	野尻町	豊島 則武	新富町	豊島 則武	新富町
	比江島一夫	三股町	豊島 則武	新富町	藤井長治郎	諸塚村	藤井長治郎	諸塚村
	桂木 直	野尻町	藤井長治郎	諸塚村	富高 藤雄	高千穂町	富高 藤雄	高千穂町
	豊島 則武	新富町	富高 藤雄	高千穂町	辺保 真一	県	辺保 真一	県
	藤井長治郎	諸塚村	田内 市郎	県	田内 市郎	県社協	田内 市郎	県社協
	富高 藤雄	高千穂町	富高 憲晃	県社協	黒水 啓一	県医師会	黒水 啓一	県医師会
	田内 市郎	県	黒水 啓一	県医師会				
	富高 憲晃	県社協						
	黒水 啓一	県医師会						
監事	松山 豊蔵	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市	松山 豊蔵	宮崎市
	西田 国栄	都城市	西田 国栄	都城市	肥田木重文	都城市	肥田木重文	都城市
	柳田 銀作	延岡市	柳田 銀作	延岡市	柳田 銀作	延岡市	柳田 銀作	延岡市

(注)資料不備のため不明

役職	昭和57年度		昭和58年度		昭和59年度		昭和60年度	
顧問	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
会長	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市
副会長	白坂 儀作	宮崎市	白坂 儀作	宮崎市	白坂 儀作	宮崎市	白坂 儀作	宮崎市
	馬場 清輝	都城市	馬場 清輝	都城市	馬場 清輝	都城市	馬場 清輝	都城市
	佐藤 克巳	延岡市	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町
	湯地 明	清武町	富高 藤雄	高千穂町	富高 藤雄	高千穂町	富高 藤雄	高千穂町
常務理事	佐伯 正	事務局長	佐伯 正	事務局長	佐伯 正	事務局長	佐伯 正	事務局長
理事	宮浦 一美	日南市	川口 新吉	延岡市	川口 新吉	延岡市	甲斐 茂吉	延岡市
	西立野徳辻	小林市	蔵富 春美	日南市	蔵富 春美	日南市	蔵富 春美	日南市
	成合和次郎	日向市	西立野徳辻	小林市	西立野徳辻	小林市	南薗 一男	小林市
	河野 茂	西都市	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市	成合和次郎	日向市
	別府 盛義	えびの市	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市	河野 茂	西都市
	谷山 宗之	北郷町	別府 盛義	えびの市	別府 盛義	えびの市	別府 盛義	えびの市
	山口蔵右衛門	国富町	河野 正一	北郷町	河野 正一	北郷町	河野 正一	北郷町
	梯 藤義	山田町	山口蔵右衛門	国富町	梯 藤義	山田町	梯 藤義	山田町
	桂木 直	野尻町	梯 藤義	山田町	西川 嘉次	高原町	西川 嘉次	高原町
	豊島 則武	新富町	桂木 直	野尻町	上村 桝雄	綾町	上村 桝雄	綾町
	藤井長治郎	諸塚村	豊島 則武	新富町	森 仲吉	高鍋町	森 仲吉	高鍋町
	富高 藤雄	高千穂町	田口 正	北方町	田口 正	北方町	田口 正	北方町
	杉尾 三夫	県	甲斐 勲	県	鬼塚 猛	県	鬼塚 猛	県
	田内 市郎	県社協	田内 市郎	県社協	田内 市郎	県社協	田内 市郎	県社協
	黒水 啓一	県医師会	黒水 啓一	県医師会				
監事	新名 忠夫	宮崎市	新名 忠夫	宮崎市	宮本 菊松	宮崎市	宮本 菊松	宮崎市
	肥田木重文	都城市	肥田木重文	都城市	肥田木重文	都城市	肥田木重文	都城市
	河野 孝行	日向市	河野 孝行	日向市	河野 孝行	日向市	河野 孝行	日向市

(注)資料不備のため不明

役職	昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度	
顧問	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
会長	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市	谷口 盛行	串間市
副会長	白坂 儀作	宮崎市	白坂 儀作	宮崎市	清山 義美	宮崎市	清山 義美	宮崎市
	肥田木重文	都城市	丸野 新二	都城市	丸野 新二	都城市	平田 義孝	都城市
	甲斐 茂吉	延岡市	川口 新吉	延岡市	川口 新吉	延岡市	川口 新吉	延岡市
	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町	湯地 明	清武町
常務理事	村田 廣則	事務局長	村田 廣則	事務局長	村田 廣則	事務局長	村田 廣則	事務局長
理事	蔵富 春美	日南市	蔵富 春美	日南市	蔵富 春美	日南市	﨑村熊次郎	日南市
	南薗 一男	小林市	南薗 一男	小林市	南薗 一男	小林市	塘 辰二	小林市
	成合和次郎	日向市	河野 稔	日向市	河野 稔	日向市	河野 稔	日向市
	川口 穆	西都市	川口 穆	西都市	川口 穆	西都市	川口 穆	西都市
	鬼丸 為親	えびの市	鬼丸 為親	えびの市	鬼丸 為親	えびの市	鬼丸 為親	えびの市
	阪元 三郎	南郷町	阪元 三郎	南郷町	河野 正一	北郷町	河野 正一	北郷町
	梯 藤義	山田町	梯 藤義	山田町	梯 藤義	山田町	栗野 喬夫	三股町
	西川 嘉次	高原町	西川 嘉次	高原町	西川 嘉次	高原町	西川 嘉次	高原町
	上村 桝雄	綾町	上村 桝雄	綾町	上村 桝雄	綾町	馬登 定	国富町
	森 仲吉	高鍋町	平田 宗俊	川南町	原 重隆	高鍋町	原 重隆	高鍋町
	田口 正	北方町	田口 正	北方町	安田 厚	門川町	安田 厚	門川町
	鈴木 日恵	高千穂町	鈴木 日恵	高千穂町	安田 馨	西郷村	安田 馨	西郷村
	鬼塚 猛	県	松野 義臣	県	鈴木 日恵	高千穂町	鈴木 日恵	高千穂町
	国府 重則	県社協	国府 重則	県社協	松野 義臣	県	内田 琢也	県
					国府 重則	県社協	国府 重則	県社協
					竹内 三郎	県医師会	竹内 三郎	県医師会
					富松 昇	宮崎市社協	富松 昇	宮崎市社協
監事	宮本 菊松	宮崎市	長友 秀彦	宮崎市	長友 秀彦	宮崎市	長友 秀彦	宮崎市
	中西 正夫	都城市	平田 義孝	都城市	平田 義孝	都城市	原田 利雄	山之口町
	後藤 京士	日之影町	後藤 京士	日之影町	後藤 京士	日之影町	後藤 京士	日之影町

(注)資料不備のため不明

役職	平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度	
顧問	谷口　盛行	串間市	谷口　盛行	串間市	福永　克己	県医師会長	福永　克己	県医師会長
会長	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市	河野　稔	日向市	河野　稔	宮崎市
副会長	馬登　定	国富町	甲斐　満吉	高岡町	石井　正	宮崎市	石井　正	宮崎市
	平田　義孝	都城市	楠元　鉄雄	都城市	蓑部　初次	都城市	増満　正二	都城市
	後藤　儀助	延岡市	後藤　儀助	延岡市	後藤　儀助	延岡市	後藤　儀助	延岡市
	崎村熊次郎	日南市	日高　亮明	日南市	時任ハツコ	宮崎市	時任ハツコ	宮崎市
常務理事	日髙　一典	事務局長	日髙　一典	事務局長	村田　廣則	事務局長	森田　戍	事務局長
理事	塘　辰二	小林市	高田　昌敏	小林市	日高　亮明	日南市	日高　亮明	日南市
	河野　稔	日向市	河野　稔	日向市	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市
	間瀬田金義	串間市	間瀬田金義	串間市	間瀬田金義	串間市	間瀬田金義	串間市
	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市
	加世田一男	えびの市	加世田一男	えびの市	赤川　盛秀	えびの市	赤川　盛秀	えびの市
	湯地　明	清武町	高野　寅夫	田野町	高野　寅夫	田野町	高野　寅夫	田野町
	田中　春樹	南郷町	田中　春樹	南郷町	河野　正一	北郷町	河野　正一	北郷町
	栗野　喬夫	三股町	栗野　喬夫	三股町	福園　傳	高城町	福園　傳	高城町
	西川　嘉次	高原町	西川　嘉次	高原町	崎山　熊次	須木村	眞方　良穂	野尻町
	原　重隆	高鍋町	原　重隆	高鍋町	猪子石　巖	高岡町	猪子石　巖	高岡町
	朝倉　能信	門川町	横山　實	北川町	原　重隆	高鍋町	原　重隆	高鍋町
	安田　馨	西郷村	安田　馨	西郷村	安田　馨	西郷村	福田　義晴	門川町
	鈴木　日恵	高千穂町	鈴木　日恵	高千穂町	甲斐　満	北方町	安田　馨	西郷村
	内田　琢也	県	藤井洋一郎	県	鈴木　日恵	高千穂町	鈴木　日恵	高千穂町
	長友　克郎	県社協	岩切　成正	県社協	近藤　定子	都城市	近藤　定子	都城市
	竹内　三郎	県医師会	竹内　三郎	県医師会	田中　昭子	日向市	田中　昭子	日向市
	富松　昇	宮崎市社協	富松　昇	宮崎市社協	木脇　みよ	田野町	木脇　みよ	田野町
					藤井洋一郎	県	牧野　俊雄	県
					岩切　成正	県社協	岩切　成正	県社協
監事	長友　秀彦	宮崎市	長友　秀彦	宮崎市	長友　秀彦	宮崎市	長友　秀彦	宮崎市
	原田　利雄	山之口町	原田　利雄	山之口町	村田　秀雄	山田町	村田　秀雄	山田町
	後藤　京士	日之影町	後藤　京士	日之影町	後藤　京士	日之影町	後藤　京士	日之影町

役　職	平成6年度		平成7年度		平成8年度		平成9年度	
顧　問	福永　克己	県医師会長	福永　克己	県医師会長	福永　克己	県医師会長	福永　克己	県医師会長
会　長	石井　正	宮崎市	時任ハツコ	宮崎市	時任ハツコ	宮崎市	清山　義美	宮崎市
副会長	山元　重雄	都城市	山元　重雄	都城市	山元　重雄	都城市	山元　重雄	都城市
	後藤　儀助	延岡市	佐藤　利	延岡市	佐藤　利	延岡市	佐藤　利	延岡市
	山中　武	日南市	山中　武	日南市	山中　武	日南市	山中　武	日南市
	時任ハツコ	宮崎市	宇都宮一栄	日向市	宇都宮一栄	日向市	宇都宮一栄	日向市
常務理事	森田　戍	事務局長	森田　戍	事務局長	森田　戍	事務局長	森田　戍	事務局長
理　事	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市
	河野　稔	日向市	黒木　實	日向市	石川　安雄	日向市	石川　安雄	日向市
	間瀬田金義	串間市	間瀬田金義	串間市	堀口　霞	串間市	堀口　霞	串間市
	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市	川口　穆	西都市
	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市
	丸田　寅雄	佐土原町	丸田　寅雄	佐土原町	丸田　寅雄	佐土原町	丸田　寅雄	佐土原町
	池田　靜	南郷町	池田　靜	南郷町	高妻　正時	北郷町	高妻　正時	北郷町
	高橋　安恒	三股町	高橋　安恒	三股町	高橋　安恒	三股町	川畑　政治	高崎町
	眞方　良穂	野尻町	眞方　良穂	野尻町	眞方　良穂	野尻町	眞方　良穂	野尻町
	大隈　忠	綾町	大隈　忠	綾町	岩切　福一	国富町	岩切　福一	国富町
	原　重隆	高鍋町	西村　満	高鍋町	植松　喜吉	川南町	植松　喜吉	川南町
	福田　義晴	門川町	中田　清	門川町	甲斐　治二	南郷村	甲斐　治二	南郷村
	安田　馨	西郷村	安田　馨	西郷村	松比良善吉	北浦町	松比良善吉	北浦町
	鈴木　日恵	高千穂町	鈴木　日恵	高千穂町	鈴木　日恵	高千穂町	鈴木　日恵	高千穂町
	成山ユリ子	都城市	日置百合子	都城市	長友セツ子	宮崎市	長友セツ子	宮崎市
	宇都宮一栄	日向市	木脇　みよ	田野町	日置百合子	都城市	日置百合子	都城市
	木脇　みよ	田野町	増田　政子	高鍋町	木脇　みよ	田野町	木脇　みよ	田野町
	川崎　英則	県	丸山　三盛	県社協	丸山　三盛	県社協	赤木　伸隆	県社協
	岩切　成正	県社協	川崎　英則	みやざき長寿社会推進機構	杉尾　忠信	みやざき長寿社会推進機構	岩切　眞行	みやざき長寿社会推進機構
監　事	佐藤　利	延岡市	東　國光	延岡市	東　國光	延岡市	甲斐　林治	延岡市
	村田　秀雄	山田町	藏滿　新	山田町	高牟禮行則	須木村	高牟禮行則	須木村
	山内　正德	木城町	山内　正德	木城町	宮本　忠臣	新富町	宮本　忠臣	新富町

役　職	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
顧　問	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長
会　長	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市
副会長	田村　一男	都城市	柳田　實盛	都城市	柳田　實盛	都城市	柳田　實盛	都城市
	佐藤　利	延岡市	佐藤　利	延岡市	佐藤　利	延岡市	山中　武	日南市
	山中　武	日南市	山中　武	日南市	山中　武	日南市	石川　安雄	日向市
	宇都宮一栄	日向市	宇都宮一栄	女性部長	前田　幹女	女性部長	前田　幹女	女性部長
常務理事	森田　戍	事務局長	森田　戍	事務局長	桑原　五男	事務局長	桑原　五男	事務局長
理　事	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市	高田　昌敏	小林市	甲斐　林治	延岡市
	石川　安雄	日向市	石川　安雄	日向市	石川　安雄	日向市	中園　健一	小林市
	堀口　霞	串間市	堀口　霞	串間市	堀口　霞	串間市	堀口　霞	串間市
	足利晃市郎	西都市	金丸　林	西都市	金丸　林	西都市	黒木　隆	西都市
	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市	新出水藏人	えびの市
	落合　國利	清武町	落合　國利	清武町	永井　順	田野町	永井　順	田野町
	高妻　正時	北郷町	高妻　正時	北郷町	高妻　正時	北郷町	高妻　正時	北郷町
	川畑　政治	高崎町	瀬戸口種好	高城町	瀬戸口種好	高城町	瀬戸口種好	高城町
	眞方　良穂	野尻町	眞方　良穂	野尻町	今西　二雄	高原町	今西　二雄	高原町
	錦田　實	高岡町	錦田　實	高岡町	田實　信郎	綾町	田實　信郎	綾町
	永友　正	木城町	永友　正	木城町	河野　久良	都農町	河野　久良	都農町
	甲斐　治二	南郷村	甲斐　治二	南郷村	大山清右衛門	南郷村	大山清右衛門	南郷村
	甲斐　弘	北方町	大山清右衛門	南郷村	甲斐　弘	北方町	甲斐　弘	北方町
	渡邊　勝馬	高千穂町	甲斐　弘	北方町	渡邊　勝馬	高千穂町	渡邊　勝馬	高千穂町
	前田　幹女	宮崎市	渡邊　勝馬	高千穂町	田原ミキヲ	日南市	田原ミキヲ	日南市
	西田トキエ	えびの市	前田　幹女	宮崎市	松山　フサ	高岡町	松山　フサ	高岡町
	木脇　みよ	田野町	日高　津代	山田町	寺原　廣子	東郷町	寺原　廣子	東郷町
	赤木　伸隆	県社協	木脇　みよ	田野町	弓削　哲郎	県社協	浜田　範幸	県社協
	岩切　眞行	みやざき長寿社会推進機構	赤木　伸隆	県社協	岩切　邦彦	みやざき長寿社会推進機構	早川　辰朗	みやざき長寿社会推進機構
			岩切　邦彦	みやざき長寿社会推進機構				
監　事	甲斐　林治	延岡市	甲斐　林治	延岡市	三原　竹信	山之口町	三原　竹信	山之口町
	瀬戸口種好	高城町	三原　竹信	山之口町	宮本　忠臣	新富町	宮本　忠臣	新富町
	宮本　忠臣	新富町	宮本　忠臣	新富町	杉本　幸吉	西郷村	杉本　幸吉	西郷村

役　職	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
顧　問	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長
会　長	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市
副会長	徳山　清芳	都城市	山中　武	日南市	甲斐　林治	延岡市	甲斐　成	延岡市
	山中　武	日南市	石川　安雄	日向市	山中　武	日南市	永井　順	田野町
	石川　安雄	日向市	倉掛　喜有	高原町	倉掛　喜有	高原町	倉掛　喜有	高原町
	前田　幹女	女性部長	前田　幹女	女性部長	前田　幹女	女性部長	前田　幹女	女性部長
常務理事	桑原　五男	事務局長	桑原　五男	事務局長	伊東　亮介	事務局長	伊東　亮介	事務局長
理　事	甲斐　林治	延岡市	瀬戸山杉夫	都城市	瀬戸山杉夫	都城市	瀬戸山杉夫	都城市
	中園　健一	小林市	甲斐　林治	延岡市	入部　智	小林市	徳田　道治	日南市
	堀口　霞	串間市	入部　智	小林市	石川　安雄	日向市	樫山　榮	小林市
	黒木　隆	西都市	黒木　文夫	串間市	黒木　文夫	串間市	石川　安雄	日向市
	新出水藏人	えびの市	黒木　隆	西都市	黒木　隆	西都市	黒木　文夫	串間市
	河﨑　繁	佐土原町	新出水藏人	えびの市	木野　喜市	えびの市	杉本　實	西都市
	濵田　一郎	南郷町	河﨑　繁	佐土原町	永井　順	田野町	木野　喜市	えびの市
	瀬戸口種好	高城町	濵田　一郎	南郷町	濵田　一郎	南郷町	濵田　一郎	南郷町
	倉掛　喜有	高原町	瀬戸口種好	高城町	瀬戸口種好	高城町	瀬戸口種好	高城町
	近藤　勇夫	国富町	近藤　勇夫	国富町	中原　和夫	高岡町	中原　和夫	高岡町
	三浦　芳尚	新富町	井上　則男	新富町	岩下　好	高鍋町	岩下　好	高鍋町
	大山清右衛門	南郷村	大山清右衛門	南郷村	大山清右衛門	南郷村	大山清右衛門	南郷村
	甲斐　弘	北方町	甲斐　弘	北方町	甲斐　弘	北方町	杉野　初明	北川町
	渡邊　勝馬	高千穂町	渡邊　勝馬	高千穂町	後藤　留治	高千穂町	後藤　留治	高千穂町
	田原ミキヲ	日南市	田原ミキヲ	日南市	松井　忠子	都城市	松井　忠子	都城市
	松山　フサ	高岡町	田中　昭子	日向市	田中　昭子	日向市	田中　昭子	日向市
	田中　昭子	日向市	松山　フサ	高岡町	矢野　幸子	高鍋町	矢野　幸子	高鍋町
	浜田　範幸	県社協	浜田　範幸	県社協	植木　英範	県社協	植木　英範	県社協
	中原優太郎	みやざき長寿社会推進機構	中原優太郎	みやざき長寿社会推進機構	日高　義郎	みやざき長寿社会推進機構	山口　耕司	みやざき長寿社会推進機構
監　事	楠元　俊治	野尻町	楠元　俊治	野尻町	楠元　俊治	野尻町	楠元　俊治	野尻町
	髙尾日出夫	川南町	髙尾日出夫	川南町	髙尾日出夫	川南町	髙尾日出夫	川南町
	杉本　幸吉	西郷村	杉本　幸吉	西郷村	杉本　幸吉	西郷村	杉本　幸吉	西郷村

役　職	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
顧　問	秦　喜八郎	県医師会長	秦　喜八郎	県医師会長	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市
会　長	清山　義美	宮崎市	永井　順	宮崎市	川越　義郎	県社協	川越　義郎	県社協
副会長	甲斐　成	延岡市	甲斐　成	延岡市	小倉　豊	宮崎市	小倉　豊	宮崎市
	那須　常夫	北郷町	那須　常夫	北郷町	杉野　初明	延岡市	杉野　初明	延岡市
	倉掛　喜有	高原町	倉掛　喜有	高原町	細田　豊	南郷町	徳田　道治	日南市
	吉村　賜代	女性部長	松葉フミ子	女性部長	倉掛　喜有	高原町	倉掛　喜有	高原町
					矢野　幸子	女性部長	河野　夕工	女性部長
常務理事	田中　寿一	事務局長	田中　寿一	事務局長	田中　寿一	事務局長	小川　順平	事務局長
理　事	瀬戸山杉夫	都城市	瀬戸山杉夫	都城市	瀬戸山杉夫	都城市	瀬戸山杉夫	都城市
	徳田　道治	日南市	徳田　道治	日南市	徳田　道治	日南市	柊山　林一	小林市
	樫山　榮	小林市	樫山　榮	小林市	樫山　榮	小林市	眞弓　辰男	日向市
	眞弓　辰男	日向市	眞弓　辰男	日向市	眞弓　辰男	日向市	黒木　文夫	串間市
	黒木　文夫	串間市	黒木　文夫	串間市	黒木　文夫	串間市	杉本　實	西都市
	杉本　實	西都市	杉本　實	西都市	杉本　實	西都市	押領司　勲	えびの市
	木野　喜市	えびの市	押領司　勲	えびの市	押領司　勲	えびの市	池田　隆行	清武町
	中薗　兼良	綾町	中薗　兼良	綾町	池田　隆行	清武町	後藤　孟也	木城町
	高尾日出夫	川南町	高尾日出夫	川南町	後藤　孟也	木城町	竹内　周	門川町
	大山清右衛門	南郷村	大山清右衛門	美郷町	竹内　周	門川町	佐藤　定儀	高千穂町
	後藤　留治	高千穂町	後藤　留治	高千穂町	佐藤　定儀	高千穂町	大峯　綾子	都城市
	松井　忠子	都城市	松井　忠子	都城市	河野　夕工	宮崎市	甲斐　厚子	延岡市
	甲斐　厚子	延岡市	甲斐　厚子	延岡市	甲斐　厚子	延岡市	矢野　幸子	高鍋町
	矢野　幸子	高鍋町	矢野　幸子	高鍋町	蛯原　由子	日南市		
	齊藤　晌一	県社協	河野　博	県社協				
監　事	二之方美年	三股町	細田　豊	南郷町	中薗伊三郎	宮崎市	中薗伊三郎	宮崎市
	岩下　好	高鍋町	岩下　好	高鍋町	吉髙　一喜	延岡市	吉髙　一喜	延岡市
	竹内　周	門川町	竹内　周	門川町	黒木　弘	都農町	黒木　弘	都農町

役　職	平成22年度		平成23年度	
顧　問	清山　義美	宮崎市	清山　義美	宮崎市
会　長	小倉　豊	宮崎市	小倉　豊	宮崎市
副会長	杉野　初明	延岡市	杉野　初明	延岡市
	徳田　道治	日南市	田中　茂芳	日南市
	倉掛　喜有	高原町	倉掛　喜有	高原町
	河野　夕工	女性部長	河野　夕工	女性部長
常務理事	小川　順平	事務局長	小川　順平	事務局長
理　事	瀬戸山杉夫	都城市	森山　勇二	都城市
	柊山　林一	小林市	柊山　林一	小林市
	眞弓　辰男	日向市	眞弓　辰男	日向市
	山内　正信	串間市	山内　正信	串間市
	前谷　由忠	西都市	前谷　由忠	西都市
	押領司　勲	えびの市	押領司　勲	えびの市
	緒方　干城	国富町	緒方　干城	国富町
	黒木　弘	都農町	黒木　弘	都農町
	椎葉　林	椎葉村	那須　清重	椎葉村
	佐藤　定儀	高千穂町	佐藤　定儀	高千穂町
	大峯　綾子	都城市	大峯　綾子	都城市
	甲斐　厚子	延岡市	甲斐　厚子	延岡市
	矢野　幸子	高鍋町	矢野　幸子	高鍋町
	宮本　尊	県社協	髙橋　博	県社協
監　事	中薗伊三郎	宮崎市	中薗伊三郎	宮崎市
	吉髙　一喜	延岡市	上杉　幸康	延岡市
	正ヶ峯征男	三股町	正ヶ峯征男	三股町

公益財団法人設立時役員・評議員
（平成24年4月1日）

役職名	氏　名	所属老連名等
会　長	小倉　豊	宮崎市
副会長	杉野　初明	延岡市
〃	田中　茂芳	日南市
〃	倉掛　喜有	高原町
〃	河野　夕工	女性部長
常務理事	小川　順平	事務局長
理　事	森山　勇二	都城市
〃	黒木　弘	都農町
〃	黒木　光男	門川町
〃	髙橋　博	県社協
監　事	押領司　勲	えびの市
〃	正ヶ峯征男	三股町
〃	上杉　幸康	延岡市
評議員	柊山　林一	小林市
〃	眞弓　辰男	日向市
〃	山内　正信	串間市
〃	前谷　由忠	西都市
〃	緒方　干城	国富町
〃	永山　英男	綾町
〃	飛田　博温	高鍋町
〃	森松　好幸	新富町
〃	佐伯　正直	西米良村
〃	新見　秀澄	木城町
〃	髙尾日出夫	川南町
〃	田高　一志	諸塚村
〃	那須　清重	椎葉村
〃	佐藤井野吉	美郷町
〃	佐藤　定儀	高千穂町
〃	山口　敏雄	日之影町
〃	佐伯　博	五ヶ瀬町
〃	大峯　綾子	女性部
〃	甲斐　厚子	女性部
〃	矢野　幸子	女性部

県老連事務局職員

役職名	氏　名
事務局長	小川　順平
活動推進員	長谷川勝海
書　記	日髙　有紀

西暦	年月日	老人クラブのあゆみ（宮崎県老連関係）	年月日	老人クラブのあゆみ（全老連関係）
1952			昭和27年	全国各地の社会福祉協議会において、老人クラブづくりがすすめられる
1955			〃 30.9	全国老人クラブ連絡協議会が設立される
1957			〃 32	大阪市と徳島県に老人クラブ連合会が設立される以後、全国各地で連合会設立相次ぐ
1958	昭和33.3	宮崎県百歳会結成される 宮崎市ほか数カ市町村の会員500名で結成		
1961	〃 36.12	宮崎県百歳会連合会発足（宮崎市福祉会館） 宮崎市・都城市・延岡市が発起人となり3市他15町村20団体で結成	〃 36.10	全国社会福祉大会で老人クラブの全国組織結成について決議される
1962			〃 37.4	全国老人クラブ連合会結成大会開催
1963	〃 38.12.1	宮崎県老人クラブ連合会結成大会		
1964	〃 39.3 〃 39.6.22	宮崎県百歳会連合会総会 百歳会連合会会報（百連会報）創刊号発行		
1965	〃 40.6	宮崎県老人大会 宮崎市民会館に約2千名参集して開催される		
1966	〃 41.9	宮崎県老人クラブ綱領制定		
1967	〃 42	第1回作品展示会（宮崎県教育会館） 全国に先駆けて開催される　展示作品385点 九州ブロック老人クラブ指導者研修会（宮崎市）	〃 42	全国7ブロックにおける「郡市区町村老人クラブリーダー研修会」開始
1968	〃 43	明治百年記念県老人クラブ大会	〃 43.3 〃 43.11	機関誌「全老連」創刊 「明治百年・老人福祉法制定5周年記念全国老人クラブ大会」開催
1972	〃 47.11.7	第1回老人スポーツ大会 県内5ブロックで開催　延べ7千名が参加	〃 47.10	全老連設立10周年記念全国老人クラブ大会開催
1973	〃 48.1 〃 48.4 〃 48.10.31	県老連だより創刊号発行　　年3回発行 明るいあすをひらく老年開発講師団派遣事業開始（講師団　279名） 宮崎県老人福祉促進県民会議 （老人福祉法制定10周年記念）	〃 48.4	「老人クラブ運営方針」を策定
1974	〃 49 〃 49.5.18	活動推進員設置 法人化促進協議会を設置		
1975	〃 50.4.23 〃 50.6	財団法人設立 九州ブロック老人クラブ指導者研修会（青島）		
1976	〃 51.2.20	第1回県老人クラブ大会開催（宮崎市民会館）		
1978	〃 53.10.6 〃 53	第1回ゲートボール・四半的弓道大会 大淀川スポーツセンター（河川敷地）で開催 老人クラブ活動事例集（第1集）発刊		

表

西暦	年月日	老人福祉行政のあゆみ	年月日	社会のできごと
1954	昭和29年	「(新)厚生年金保険法」公布・施行		
1956	〃 31	長野県で全国最初のホームヘルプ事業開始 (家庭養護婦制度)	昭和31	日本が国際連合に加盟
1958	〃 33	「(新)国民健康保険法」成立 (国民皆保険体制が確立)	〃 33.12 〃	一万円札発行 長嶋茂雄　巨人軍に入団
1959	〃 34.11	「国民年金法」(無拠出制)施行		
1960	〃 35	老齢福祉年金支給開始　月額1,000円	〃 35	新日米安全保障条約発効
1961	〃 36.4	「国民年金法」(拠出制)全面施行 (国民皆年金制度が確立)	〃 36	ソ連有人宇宙衛星打ち上げ
1963	〃 38.8	「老人福祉法」施行 老人クラブに対する助成始まる	〃 38	ケネディ大統領暗殺
1964	〃 39	厚生省　社会局に「老人福祉課」を設置	〃 39.10 〃	東京オリンピック開催 新潟地震発生
1965	〃 40.4	「老人クラブ運営基準」制定	〃 40	朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞
1966	〃 41.6	「老人の日」が「敬老の日」として国民の祝日となる(9月15日)	〃 41.6	ザ・ビートルズが来日
1967			〃 42 〃	日本の人口が1億人突破 南アフリカで世界最初の心臓移植
1968			〃 43 〃	小笠原諸島返還 川端康成ノーベル文学賞受賞
1971	〃 46	老人医療費一部公費負担となる	〃 46	ニクソン・ショック(米がドル紙幣と金の兌換を停止)
1972	〃 47	厚生省　社会局に「老人保健課」を設置	〃 47.5 〃	沖縄施政権返還、沖縄県発足 札幌オリンピック開催／あさま山荘事件
1973	〃 48	「老人医療無料化制度」開始 この年　「福祉元年」といわれる	〃 48 〃	円が変動相場制に移行 石油ショック起こる
1974	〃 49	厚生省　都道府県・指定都市老連に活動推進員を各1名設置	〃 49	小野田寛郎さんルパング島から帰国
1975	〃 50	市町村老人クラブ連合会への国庫補助始まる	〃 50	沖縄海洋博開催／ベトナム戦争終わる
1976			〃 51	ロッキード事件
1977	〃 52	老齢福祉年金　月2万円に増額	〃 52.9	王貞治ホームラン756号、世界新記録達成
1978			〃 53 〃	日中平和友好条約調印される 成田新国際空港開港

西暦	年月日	老人クラブのあゆみ（宮崎県老連関係）	年月日	老人クラブのあゆみ（全老連関係）
1979	昭和54.9	県老連旗、会員バッジ制定		
1980	〃 55.9.2～ 9.3	第1回囲碁、将棋大会 2日囲碁大会、3日将棋大会を宮崎市で開催	昭和55.4 〃 55	「市町村老人クラブ連合会運営指針」策定 全国運動「病にかからぬ運動」開始 （昭和59年に「健康をすすめる運動」に改称）
1982			〃 57.3 〃 57.9	老人クラブのシンボルマーク、会員章制定 「創立20周年記念全国老人クラブ大会」開催
1983	〃 58.10	老人福祉法制定20周年記念県老人クラブ大会		
1985	〃 60	アフリカ・アジア難民等救援拠金に取り組む		
1986	〃 61	「社会奉仕の日」開始 県下47，127名参加	〃 61	「健康をすすめる運動」に「友愛活動」「『社会奉仕の日』一斉奉仕活動」を加え、健康・友愛・奉仕の全国3大運動を開始
1987			〃 62.9	「老人クラブ保険」創設
1990	平成2	シルバーカードの作成（5万枚）	平成2.5	「提言 21世紀に向けての『新たな老人クラブづくり』」発表
1991	〃 3	（財）みやざき長寿社会推進機構発足	〃 3.3	「老人クラブ『ねたきりゼロ運動の10か条』」策定
1992	〃 4 〃 4.11.26	婦人部会結成 「高齢者の知恵と技」普及・活用事業開始 高齢者相互支援推進啓発事業開始 滋賀県老連との交流研修会実施	〃 4 〃 4.9	全国運動「在宅福祉を支える友愛活動」開始 創立30周年記念全国老人クラブ大会開催
1993	〃 5 〃 5 〃 5.10 13、15	一億円基金造成開始 平成5年～8年造成 全市町村に婦人部が結成される 第10回世界ベテランズ陸上競技選手権宮崎大会開催 「シニア国際ふれあいコーナー」で国際交流を行う	〃 5.7	「女性委員会」発足
1994	〃 6.4.1	婦人部を女性部に改称		
1995	〃 7 〃 7.7.11 ～13	第1回グラウンド・ゴルフ大会（佐土原町で開催） 九州ブロックリーダー研修会 （宮崎観光ホテル）	〃 7	「老人クラブ21世紀プラン」策定
1996	〃 8.11.9 ～ 11.12	第9回全国健康福祉祭（ねんりんピック）宮崎大会 シルバー地域文化伝承館開設 2万人以上来場（県総合運動公園）	〃 8.5	「老人クラブ運営指針」改定
1997	〃 9	「懐かしの愛唱歌集」刊行　完売する 元気な宮崎ねんりんピック' 97 シルバー地域文化伝承館（中部管内10市町村）		
1998	〃 10	医療と薬に関する研修事業実施 元気な宮崎ねんりんピック' 98 シルバー地域文化伝承館（北西諸県管内11市町村）		
1999	〃 11.10.30 ～10.31	元気な宮崎ねんりんピック' 99 シルバー地域文化伝承館開設 （東臼杵・西臼杵管内15市町村）		
2000	〃 12	「医療と薬の学習・実践活動」推進モデル事業実施 元気な宮崎ねんりんピック' 2000 シルバー地域文化伝承館（西都児湯管内7市町村）	〃 12.3	「単位クラブ21」策定
2001	〃 13	会員加入促進パンフ「ことのは」作成 「有珠山火山活動災害」義援金に取り組む		

西暦	年月日	老人福祉行政のあゆみ	年月日	社会のできごと
1980			昭和55	モスクワ五輪(日本は不参加)
1982	昭和57.8	「老人保健法」公布(翌年施行)	〃 57	500円硬貨発行
1983	〃 58	老人医療費一部有料化	〃 58	三宅島大噴火
1985	〃 60	厚生・国民年金共通の老齢基礎年金創設	〃 60	NTT・たばこ産業(JT)発足
1986	〃 61.4 〃 61.10	「長寿社会対策大綱」閣議決定 「高年齢者雇用安定法」施行 (60歳以上定年制の努力義務化)	〃 61.4 〃	チェノブイリ原発事故発生 男女雇用機会均等法施行
1988	〃 63.10	第1回全国健康福祉祭(ねんりんピック)開催(兵庫県)	〃 63	瀬戸大橋開通
1989	平成元.12	厚生省　「高齢者保健福祉推進10か年戦略」(ゴールドプラン)」を策定	平成元	消費税法施行(3%)
1991	〃 3	老人保健法改正(老人訪問看護制度盛り込み)	〃 3	バブル崩壊
1992	〃 4	老人医療費の負担額増額 (外来900円／月、入院600円／日)	〃 4	育児休業法施行
1993	〃 5	老人医療費の負担額増額 (外来1,000円／月、入院700円／日)	〃 5.11 〃	EU発足 サッカーJリーグが開幕
1994	〃 6.12	厚生省　「新ゴールドプラン」を策定	〃 6	大江健三郎ノーベル文学賞受賞
1995	〃 7	老人医療費の負担額増額	〃 7.1.17 〃 7.3	阪神・淡路大震災発生 地下鉄サリン事件起こる
1996	〃 8	老人医療費の負担額増額	〃 8	羽生善治　将棋史上初の7冠達成
1997	〃 9.12	「介護保険法」公布(平成12年4月1日施行) 老人医療費の負担額増額	〃 9	消費税税率5%に引き上げ 専売制度廃止
1998	〃 10	老人医療費の負担額増額	〃 10 〃	長野オリンピック開催 明石海峡大橋開通
1999	〃 11.12	厚生省　「ゴールドプラン21」を策定 老人医療費の負担額増額	〃 11	国際高齢者年
2000	〃 12.4 〃 12.12	介護保険制度開始 「老人保健法」一部改正　定率1割負担制の導入 (外来3,000円、入院37,200円)	〃 12	BSデジタル放送開始／有珠山噴火
2001			〃 13 〃 13.9.11	サッカーくじ発売始まる 米国同時多発テロ事件発生

西暦	年月日	老人クラブのあゆみ（宮崎県老連関係）	年月日	老人クラブのあゆみ（全老連関係）
2002	平成14.10.9 〃 〃 〃14.10.13 ～14	第1回スポーツ大会（4種目同時開催になる） スポーツマスター養成事業実施 指定旅館・ホテル事業開始 「人権フェスタ2002宮崎」開催 地域文化伝承活動に参加 （シーガイア・イベント広場）	平成14 〃 14.9	全国運動「老人の日・老人週間」の取り組み開始 「創立40周年記念全国老人クラブ大会」開催
2003	〃 15.6.3 〃 15.6.30 〃 15.11.26 ～ 11.27	新綱領制定 愛称が「さんさんクラブ宮崎」に決定　表彰式 広く県民から愛称を募集、911件の応募あり 第32回全国老人クラブ大会 宮崎市フェニックス・シーガイア・リゾートで開催 参加者約2，200名	〃 15	「老人クラブ21世紀プラン」改訂
2004	〃 16	「集中豪雨・台風・新潟県中越地震」災害救援拠金		
2005	〃 17.2.15 〃 17.7.12 ～7.14 〃 17	「児童生徒の安全確保に関する覚書」締結 子どもを守る活動で県教委と覚書締結 九州ブロックリーダー研修会 （宮崎市シェラトン・フェニックス・ゴルフリゾート） 「スマトラ沖大地震・津波災害」救援拠金 「福岡県西方沖地震災害」義援金 「宮崎県台風14号災害」救援拠金 に取り組む	〃 17.12	都道府県・指定都市老連会長会議で「地域の子ども見守りパトロール活動」の緊急決議される
2006	〃 18	「県老連だより」の会員全員配布始める （第103号より） 「宮崎県台風13号被害」救援拠金に取り組む	〃 18.4	「高齢者の体力測定」啓発、普及モデル事業開始（みずほ教育福祉財団助成事業）
2007	〃 19	会員プラス5％作戦に取り組む 会員拡大用県民向けチラシ配布（373,000枚）		
2008	〃 20	会員プラス5％作成継続 会員拡大用県民向けチラシ配布（260,000枚）		
			〃 21.4	「健康ウォーキング推進事業」を提唱 （みずほ教育福祉財団助成事業）
2010	〃 22.4 〃 〃 22.7.8 ～9	健康ウォーキング事業開始 口蹄疫発生　非常事態宣言出される 県老連行事を一時自粛する 九州ブロックリーダー研修会（熊本市） 会場に口蹄疫被害義援金箱が設置される	〃 22.4	老人クラブ活性化3か年計画策定
2011	〃 23.1 〃 23.3.1 〃 23.3.11 〃 23.8.18 〃 23.11.8 〃 23.11.29	ホームページ開設 女性部常任委員　長崎県大村市老連女性部を視察研修　大村市老連より新燃岳噴火被害の義援金が寄せられる 東日本大震災救援拠金、元気袋等の支援活動を行う 元気袋2,219袋、メッセージカード1，150枚 支援物資320箱（ダンボール箱）を岩手県老連へ送る 結成50周年記念大会 宮崎市民文化ホール　約1，000名参加 新法人設立のための臨時理事会・評議員会開催 公益財団法人への移行認定申請	〃 23	東日本大震災救援拠金・元気袋等の支援活動を全国の老人クラブに呼びかけ
2012	〃 24.4.1	公益財団法人設立	〃 24	「チャレンジ！地域の元気づくり事業」開始

西暦	年月日	老人福祉行政のあゆみ	年月日	社会のできごと
2002	平成14	「健康増進法」成立（翌年施行） 「老人の日・老人週間」創設（老人の日9月15日） （老人週間　9月15日からの一週間）	平成14	小柴昌俊、田中耕一両氏ノーベル賞受賞
2003	〃 15	「敬老の日」が9月15日から9月の第3月曜日になる	〃 15	日本郵政公社発足
2004	〃 16.6	「年金改革関連法」成立	〃 16	新潟県中越地震発生／裁判員法成立 イチロー年間最多安打（262本）達成
2005	〃 17.6	「介護保険法」が予防重視型へ一部改正	〃 17	中部国際空港開港 個人情報保護法全面施行
2006	〃 18.4	「高齢者虐待防止・介護者支援法」施行	〃 18	トリノ五輪・荒川静香が金
2007			〃 19	郵政民営化
2008	〃 20.4	「後期高齢者医療制度」開始	〃 20	日本人4氏ノーベル賞受賞 （南部陽一郎、益川敏英、小林誠、下村脩）
2010	〃 22.1	社会保険庁廃止、日本年金機構となる	〃 22.4 〃 22.5.18	宮崎県で口蹄疫発生 東国原知事が県内全域に非常事態宣言発令
2011			〃 23.1 〃 23.1 〃 23.3.11 〃 23	宮崎県で鳥インフルエンザ発生 新燃岳噴火 東日本大震災発生 サッカー女子W杯でなでしこジャパン優勝

	合併市町村老連	新老連名	合併年月日
市町村老連の合併	宮崎市、田野町、佐土原町、高岡町	宮崎市老人クラブ連合会	平成18年4月　1日
	宮崎市、清武町	宮崎市老人クラブ連合会	平成22年4月　1日
	都城市、山之口町、高城町、山田町、高崎町	都城市高齢者クラブ連合会	平成18年4月　1日
	延岡市、北方町、北浦町	延岡市高齢者クラブ連合会	平成18年2月20日
	延岡市、北川町	延岡市高齢者クラブ連合会	平成19年3月31日
	日南市、北郷町、南郷町	日南市高齢者クラブ連合会	平成21年4月　1日
	小林市、須木村	小林市老人クラブ連合会	平成18年4月　1日
	小林市、野尻町	小林市老人クラブ連合会	平成22年4月　1日
	日向市、東郷町	日向市高齢者クラブ連合会	平成18年4月　1日
	南郷村、西郷村、北郷村	美郷町老人クラブ連合会	平成18年4月　1日

あとがき

結成５０周年記念誌を編集するに当たっては、老人福祉法制定２０周年を記念して昭和５９年３月に発刊された「宮崎県老連のあゆみ」を拠り所にして、その後のあゆみをたどる作業になりました。現在の県老連の活動が多くの先人達の情熱と努力により築かれ、今日まで連綿と引き継がれてきていることに感銘を受けながらも、紙面の関係でその活動を十分にお伝えできなかったことを申し訳なく思っています。

今、全国の老人クラブは、会員の減少と高齢化傾向が続く厳しい状況におかれています。宮崎県老連は、昨年１２月に結成５０周年を迎え、本年４月１日からは新たに公益財団法人としてスタートいたしましたが、この節目の年に当たって、改めて現在の厳しい状況を克服しながら、地域にとって頼れる魅力あるクラブづくりに努めていかなければならないと思っています。

ようやくにして５０周年記念誌の発刊に漕ぎ着けることができました。この小誌が、今後の県老連及び市町村老連の活動の一助になれば幸いです。

最後に、記念誌の発行に当たり、多大のご協力をいただきました関係者の皆様、資料の収集にご苦労いただきました前県老連書記新名明子様、並びに編集に際して何かとご指導いただきました（株）宮崎南印刷のスタッフに心からお礼申し上げます。

平成２４年４月吉日

常務理事兼事務局長　小川順平

The 50th anniversary
さんさんクラブ宮崎 50年のあゆみ
公益財団法人 宮崎県老人クラブ連合会　結成50周年記念誌
平成24年4月発行

編集・発行
公益財団法人 宮崎県老人クラブ連合会
〒880-0007 宮崎県宮崎市原町2-22（宮崎県福祉総合センター内）
TEL（0985）25-7800

制作・印刷
株式会社 宮崎南印刷

さんさんクラブ宮崎
公益財団法人　宮崎県老人クラブ連合会

〒880-0007 宮崎県宮崎市原町2-22
（宮崎県福祉総合センター内）
TEL/FAX 0985-25-7800